

草莽危言

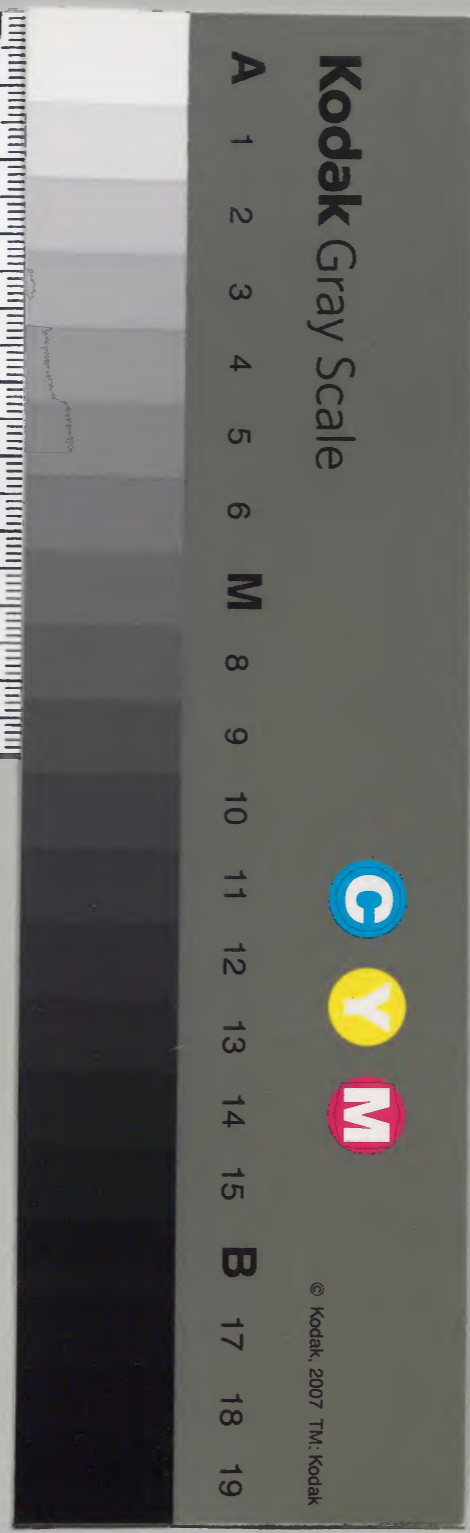
政務商農
圖書
第 三 冊
共 五 冊
號 三 三 四

大政官文庫
和書門
二九
函架冊
五

384
内閣文庫
和
二
函架冊
五

内閣文庫	
番 號	和 11029
冊 數	5 (1)
函 號	182 384

經 濟



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

萬壽樓

草茅危言序

明治十二年購求

愚之腹藁茲編也久矣蓋 國家創業之隆守成之美以
崇儒術修文教實卓越于前古延及享保中興深仁厚澤
以陶鑄一世猗與亦盛矣時以德意特命吾先父設庠黌
于大阪用牖後民至于今六十有餘年愚也守先父之職
雖頑鈍迂戾乎蚤歲讀書講道竊與有聞焉乃欽仰盛業
於其風猷制度也私有欲陳所見以粉飾太平者爾後承
其日綱維亦不能無少弛儉人抵噉疵弊多端一世侈
靡驕情以至上窮下困風俗日頹則仰屋大息又私有欲
攝微衷以冀寸補者然躬居閭閻不敢犯言高之罪乃有
意於撰一書貽子孫以備異日采用焉但以庠務鞅掌撰

拙修齋叢書 草茅危言序

一

述亦多緒也日復一日未果其志是可嗟已矣至於近歲世道一變白川侯源公以國之懿親而賢明拔萃也少遇當鈞軸以修伊周之業則不仁者遠矣治教之休四海風動以啟言路達下情實為振古罕比初也求言有錄後也求龍有說意亦其勤矣不圖身未先朝露而遇斯盛世也且也容歲戊申公巡畿邦繆錄愚虛名辱翹車之招忘勞下士之孚藹然盈座垂問塵壤更僕而後罷力退而嘆曰積年之蘊今可以傾寫焉雖然公之賢明如此以愚之陋學菲才添涓滴于河海果何益邪抑獻芹之侷自以為至味是未可以已也以事或涉機密乃避人偷閒徐徐起草既成勅為五卷命曰草茅危言其為書也唯是隨筆

貽孫之撰所以成宿志是以文亡緣飾語不主恭遜其體斐然也故未敢擬古人治安太平諸策公然叩闕竊致之心公之左右執事以乞進止耳幸有一二可采乎其餘狂妄之罪皆所自分所謂折首不悔者存焉傳曰邦有道危言危行邦無道危行言遜嗚呼噫嘻為士者之言弗遜而可危其在斯時與其在斯時與

寬政紀元己酉之冬

竹山居士中井積善拜撰

御上洛
一 示湖
一 國家制度
一 公卿百官
一 皇子皇女
一 曆日
一 年號
一 謚號院號
一 王室
一 目錄

草茅危言卷之一

目錄

- 一 王室
- 一 謚號院號
- 一 年號
- 一 曆日
- 一 皇子皇女
- 一 公卿百官
- 一 國家制度
- 一 示湖
- 一 御上洛



- 一 諸侯室家
- 一 參劾交代
- 一 國替
- 一 受順
- 一 者侯分地
- 一 諸侯大借

草茅危言卷之一

王室之事

大日本磯馭廬洲ノ大古ヨリ八百萬代ノ末マテ百王
 不易ノ澤ハ四海萬國ニ超越セサセ玉ヒタル御美事
 今更ヲサニ申奉ルニ及ハヌ御事工工姑クコレヲ
 才キ兵中葉已來漸ニ衰細シ玉ヒタルハ其源由テ
 來ル所モアレニ過半ハ崇神佞佛ノ惑ヨリ事起リ凡
 ソ朝廷ノ大典ナリタルハ禱禳薦祓ノ類ニ非ルハ
 鮮シ天災地妖凶荒疾疫姦冗寇亂等臨時ノ變故アル
 コトニソレ祈禱ソレ供養ナトニ府庫ノ財ヲ傾ケ金
 帛ヲ殫シ妖巫猾釋ヲ寵褒アルヨリ外ハナク窳冥荒

出參齋養書

草茅危言卷一

〇一

唐ノ事ノミヲ頼ミトシテ天下ノ大政要務ハ聊カモ
顧ミラレ又事トナリユキシヨリ疵弊百端ニナリソ
レヨリ以來コノ神佛荒誕ノ説ヲ以テ生民ノ害ヲス
ルコト枚擧スルニ違アラス委シク其害ヲ論センコトハ
南山ノ竹モ盡ヌヘシサレモ千有餘年深痼トナリ來
リタルコトニテ今更イカンモスヘカラサルモノ多シ
嘆スルニ餘リアルヘシ但シ今日幸ニ 聖天子宇ニ
當ラセ玉ヒ東關賢治委任ヲ專ラニセサセラレ中興
降沘之啓ケソメシ御事ナレハ積年ノ功ヲ以テ宿弊
ヲ芟除アラレンコト寔ニ千載ノ機會モ謂ツヘシ昨
屠慮ヲ以御修法ノ護摩ヲ廢セサセ玉フヘキトノ御

事有シヲ東寺ヨリ先例ヲ以テ彼是ト申ス旨アリテ
止コトヲ得サセラレサリシニ又是迄ノ式ハ改メテ別
殿ニテ行ハレシト聞及ヘリ草野ノ下其實否ハ委曲
ニシルヘキニアラサレモ大抵此等ヲ始トシ巫釋ノ
説ヨリ出テ朝廷ノ典故トナリシコトノ停廢セララルヘ
キハ餘多ナルヘシ先般東寺ノ如ク彼徒ヨリハ古例
先例格ヲ云立ヘケレモ實ニ其源ヲ尋レハ是等ノ事
ハ一モ無キト甚又其ノ古例先格ナレハイカホト例
格ヲ云立ルモコレハ拘ルコトニハアラシ唯義ノ當否
ヲ考テ義ニ叶フハ存シ義ニ叶ハサルハ廢スルニテ
スムヘシ但シ推シテ遽ニ廢置スルコトハ人心ニ厭服

皇朝續叢書 卷一

セサルヲモ有ルモノナレハヨク喻スニ義理ヲ以シ
衆人心服ノ上ニテ停廢スルヲ肝要ナルヘシ是ラノ
ヨク行ナハレナハ總メ邪説ヲ押へ人心ヲ正シク
シ紀綱ヲ整へ太平ヲ固クスルノ根本トモナルヘキ
モノナリ
一御即位禮ハ御一代ノ大典ナルヲ應仁亂後朝廷ノ
式微ヨリ永正中ハ二十年ヲ歴ル迄コノ大禮行ハレ
ス西三條内府ノ計ラヒヲ以テ本願寺ヨリ經費ヲ奉
シ天文中ニハ十年ヲ經テ大内氏ヨリ永祿中ニハ三
年ヲ經テ毛利氏ヨリシテ調進アリソノ儀始テ行ハ
ル豊臣家ニ至テ天下ノ禍亂始テ定マリ京室モ

ニテ諸儀振興ノ事多ク御即位禮ナト時日ヲ移サス
修舉アリ御當家ニ及ヒテハ申上ルニモ及ハス數百
年廢絶之事マテ追々再興アリ寔ニ日出度御事也サ
リナカラ往年御即位禮ノ圖式ナト傳ヒテ拜見セシ
ニ儀制多クハ省易忽略ナルカノヤウニモ見工其後
竊ニコノ大禮ヲ拜觀セシ事アリシニ日月章旗纛旛
等ノ制ヨリ諸儀物ニ至ルマテ皆甚々簡素ニ過タル
ヤウニ覺エタリ是ハ恐クハ右ノ永正間衰耗ノ中ニ
僅カニ事ヲ辨セサセラレシ時ノ制度ヲ萌蹤トシテ
遵用アリシヨリソノ假設苟合ノ事ニナ永制トナリ
來リイマタ本制ノ真ニハ復セラレサルニテモアラ

ンカト察セラルモシ然ラハカミル太平隆治ノ御時
節ニハ遺憾ト云ヘシ何卒本制ヲ考ヘ追々修擧アラ
セラレタキ御事ナリ但シ京師災後今日皇居ノ御
造營新タニ艱マリシ御事ナレハ其中ニ撓人煩復ス
ヘキニアラ子氏幸ニ主上春秋ニ富サセ玉ヘハ數
十年ノ移老則倦勤ノ御時ナラテハ御入用モナキ
ユ工曾テサシ急クヘキニハアラ子ハ今日ヨリ徐々
トメ本制ヲ考ヘ積年ノ功ヲ以テ周備アランハ容易
ノ御事ナルヘシカクアレハ朝廷華光ヲマサセ玉ヒ
關東ヨリ御事ノ御美德イヨミニ卓越セサセラレ
萬世ノ後ノ模楷トモナリ又ヘキ御事ナルヘシ其制

ハ定テ雲上ニ故實ノ諸記アルヘク中ニツク常藩獻
納ノ禮儀類典ニ備ハリタルヘシコレ皆余匱石室ノ
秘ニテ草野ノ窺フヘキニアラ子ハ本制ハイカナル
モノトハ知ラ子氏但愚意臆料ヲ以テ右ノ通りニモ
アラシカト試ミニ布陳スルノミ
一天子行幸ノ御事ハ中葉喪亂ヨリ跡絶テ豊公ノ時
聚樂ノ行幸久振ニテ再興アリ御當代御上洛ノ御
時二條ノ行幸繼行セラレ其後ハ又絶テ上皇御内
ニテ御幸アルノミナリ行幸ハ一聖體ノ御保養ニ最
第一ノ義ナレハ是必ス折ミハ行ハセラルヘキ御事
ナランカタミ其儀嚴重ニテハシハミシカタシ隨

行事ノキタランニハサシテツカユルヲモアルマシ
去年ノ皇居炎上ニツキ行宮迄御駐蹕アラセラレ
本年ヨリ内裏御造營アレハ一兩年ノ内ニハ定メ
テ新宮遷幸ノ御儀式アラセラルヘシノ儀式ヲ
遙ニ減損アラセラレ春秋温涼ノ節兩度ノ行幸ヲ毎
歳行ナハセラレタキ御事ナリ東山ノ花西山ノ楓
昔ノ迹ヲ尋サセラレ又ハ古今集ノ鶴立洲猿啼峽ナ
トノ分題ヲ詔付ニ命セラレ或ハ源經信ノ三船ノ才
人芳躅ヲ追セラルミナト風雅ノ御遊ニ公卿百司モ
ヲノツカラ振起シテ各才能ヲ磨カレニハ後世
鄙俗ノ頑習ヲ一洗スルハ聖體ノ御保養萬壽無

疆ノ基ヲ成ノミニ非ス人心ヲ正シクシ風俗ヲ整フ
ルミノ大助トナルヘキナリ是マテ櫻菊ノ御能ハ關
東ヨリノ御馳走ト兼ル御尊敬ノ美意ハ寔ニ有力ト
キ御事ナレト主上ノ御好ト否トアレハ御歡感ノ
深淺モアルヘシ又四座ノ分ハ禁廷ニカナルサル
由ナレハ妙藝有テモソノ詮ナクヤ事ヲ欠タル所
モ有増テ今上ハ一向散樂ヲ好マセ玉ハス近年兩
次ノ御能ハ無トキ久コノ經費ヲ移シテ行幸ノ資用
トスヘキモノニヤ所司代町奉行御附ノ武家御能ノ
勤役ヲ轉メ行幸ノ警衛トセハ是又煩劇トスヘカラ
スカク有テ平民マテモ遙ニ鳳蹕ノ清塵ヲ瞻仰スル

口ヲ得ハイカ計リカ有カタキ本望ナラニコレ併ナ
 カラ全ク關東ノ御德意ト存セハ御威光ヲ仰ク心モ
 尚サラ深カルヘシカミル月出度御世ナレハ公コノ事
 ヲ修擧シ玉ハシニハ千載ノ後ニテモタミコノ御躬
 ヲ景慕シテ末世ノ光庇ナルヘキモノニ有シ方或ハ
 往昔鹿力谷潛幸ナトノコト引テ王者ノ皇居ヲ出サ
 セ玉フ事ハヨカラヌ例ナトハイハシハ右ニ述ル如
 クノ關東ヨリ御馳走ニテ行幸ノコト潛幸微幸ナトミ
 ハ類ヲ絶タルコトヲ知ス大亂ノ世ヲ極治ノ代ニ引合
 セテ論スルハ本ヲ揣ラスメ末ヲ齊クスル岑樓ノ寸
 木ト謂ヘシハニ非スハ公コノ事ヲ言フ也

古來謚號院號ノ事

神武天皇以來御歷代帝王ノ謚號ハ文德帝ヲ御時一
 時ニ撰定スリタル由ソレマテノ稱號ハ甚タ冗長煩
 雜ニテ記認シカタキ御事ナレハ追號ハ擧夫ニ至當
 ナ御事ナリ然ルニソレヨリワヅカ三四代ヲ經テ字
 多醍醐ノ二帝ハヤ謚號ハ文字ニ非ス朱雀帝ヨリ始
 テ院號ヲ用ヒサセラルヘコトナリ地名ニ院ヲ連用
 セラルヌノミニテ天皇ノ文字ヲ廢セララルヘコト嘆ス
 ヘキナリ其後モ折ニハ崇徳安德光嚴光明崇光稱光
 帝父ハ近キ比ハ明正靈元帝ナリ謚號立玉ヘルモア
 レ氏安德ノ外ハミナ院號ニ連ナレハ佛寺ノ稱トカ

ハリタル事モナシ一條三條二條六條四條大下別シ
 テ紛ラハシク又後一條後三條後二條ナトアレハ一
 シホ混雜シタル御事ナリマシテ院號ハ諸侯大夫ヨ
 リ十庶人マテモ用ルコトナリ來リタレハ帝號ニ極
 尊ノ意カツテナシ勿體ナキトモ云ヘシ必竟ハ中
 葉已來、朝廷ニ文學衰ヘ死喪ノコトハ浮屠ニ托シ古
 代ノ典故ソコニニナリシヨリ崩壞シ來リタルヲ
 ルヘシ今日カミル聖代文化興隆ノ御時節ニテ猶日
 因循シテ後世ニ模楷スルホトノコトモナカラシニハ
 寔ニ惜ムヘキコトナリ故ニ文德帝ノ例ヲ推テ宇多帝
 已來先帝ニテ人謚號ヲ一時ニ撰定アリタキモノカ

以テ御代ニノ事迹ヲ委ク考ヒテ一ニ文字ヲ撰定
 以ラシク煩ハシク評議モ區クニナルコトナリ
 中古以來ハ年號アリテ海外ニテハ明清兩朝ハ年號
 ヲ以テ帝王ヲ稱シ洪武帝永樂帝順治帝康熙帝ナト
 云例ヲ別是ハ謚號ノ外ノ假稱ナレトソレヲ例トシ
 云從カセ御一代ニテ長カリシ年號又ハ謚號似合ハ
 シキ年號ヲ用テ謚號ニ奉ソルコト至簡至當ノ御事ナ
 ルヘシタトハ宇多帝ハ寬平天皇醍醐帝ハ延喜天
 皇朱雀ハ承平村上天德近代ニテハ元文寬延安永
 大皇ナト稱シ奉ルヘシ又ハ御一代ノ内ニ名高キ
 ヲ舉テタトハ後醍醐帝ニハ元弘又ハ建武ヲ稱シ



御制書 皇朝通志卷一
ソノ重祚ヲ孝謙稱徳ノ例ニヨシハ延元ヲ先併訖稱
スヘシ年號ハ重復ノナキモノユ工幸ノコナル命シ
又近代ハ本式ニ從ヒテ可ナルヘクハ明正帝靈元帝
ハ既ニ諡號ニ叶ハセ玉ヘハソノマシ院法テ天皇
トシソノ餘日別撰シコノ後ヲ御一代ニテ別撰ト
定メサセラル直シカラシカ
年號ハ漢ノ武帝ニ始ルトイヘ氏周季漢初ヨリ朕
セ司摠家帝王ノ元年ハ即位ノ初年ノコニテ何モ
クニアツ助ルコトヲ周季戰國ノ時ニ方術禱祥ノ
說ニ惑アリテ云テ祝ヒ直シテ日出度ノ中心

御制書 皇朝通志卷一
元年ヲト稱セリ漢武ニ至リ其例ニ益立カフレハ後
ハ等ニ様モ無キ様ニカレ故其名號ヲ立テ建元ト名
クシヨリ始テ年號定リタリシ元來禋祥ト云ニ足サ
ルコトヲ在後世ヨリハ年代ヲ考ルニ記認シヨク簡
便ナルヨリ工長ク其制ヲ守ルコトナリタリタレ
禋祥ヲ離レサルコト工天變地妖人事ノ變ヲトニツキ
テ必又改元シテ壓勝スルカ風ハイツク世モ替ラズ
但今千數百年ヲ經テ明清ニ至リ始テソノ惑モ解タ
ルニ代一代二年號ト定リタルハ是太ニ簡當ノ下

御制書 皇朝通志卷一
御制書 皇朝通志卷一
御制書 皇朝通志卷一

ナリ我邦ハ李唐ノ制ヲ取テ大化白雉ヲ始メ大寶以
來今ニ聯綿タリカメ祿祥ノ風マテ存シテ一代ニ數
度改元アルモ同シ又神武帝元年ハ辛酉ニ當ルヨリ
辛酉草命ト云コライヒ立テ必ス改元アルトシ延
喜ヨリ寛保マテ定式トナリタリソノ間ニ改元ナカ
リシ辛酉ハ永祿四年ト元和七ノミナリ又甲子ハ歲
ヲ草令ト云テ必改元アルトシ康保七年ヨリ始マ
リ延享ニ至リソノ間改元ナカリシ甲子ハ永祿七年
ヲ三ナリ又繼代ノ元年ニ改元ナカリシモ每度
ナリ上下千有餘年ノ間改元アリテサシテ吉モナク
改元ナクテサラニ凶モナシ一代數號ノ時モ一代一

號ノ時モ亦同シ祿祥ノ妄壓勝ノ誕タルヲ識者ニ非
ス臣明カニ知ルヘキト也何分是ハ明清ノ法ニ從ヒ
一代一號ト定メタキ御事ナリ明ノ興ルヤ我邦ノ應
安元年ニ當リソノ亡ルハ正保元年ナリソノ間三百
七十餘年ニメ明ノ年號十七我邦ノ年號三十八ナリ
清ノ興ルヤ我正保ヨリ今寛政マテ百四十余年ニメ
年號四ツ我邦ノ年號二十二ナリ煩簡ノ相違カクノ
如シ又年號ノ文字ハ朝廷ニ字數ノ定アリテ廣ク諸
蕃ニ求ルコトヲ禁ス故ニ同シ文字ハカリ上ニナリ下
ニナリ尚更記認シカタシ是ハイツレノ比ヨリ定リ
タル法ニヤ察スル所中葉朝廷ノ大衰ニテ翰林ノ諸

出修齋叢書 直孝卷一

公モ文業ニ明カナラサリシユ正止ヲ得スハ簡捷
ノ法ヲ設ケラレタルト見ユ今日文教盛ニナリ翰
苑ニモソノ人アルニヤハリ舊弊ヲ守ルハイカニナ
リ廣ク文字ヲ求ムヘキコナリ是モ明清ノ如ク一代
一號ニナリナハ是マテツヒニナキ文字ハカリヲ以
テ年號ヲ立ルコトモ容易ナルヘク記認ノタメニモ別
メ宜シカルヘシ

曆日之事
曆ハ土御門家ノ職司ナレハ外人ノ與リ知テ妄リニ
議スヘキニハ非サレハ華域ノ曆ヲ傳ヘ見ルニサシ
テ替リタルコトモハシク竟我邦ノ曆ハ華曆ヲ受テ作

リタレモ人ユ正今ソノ本コツクテ議奏ヘシ
ノ肝要八月ノ大小ヲタテ干支ヲ以リツケニ
ヲ配分シ日食月食ヲニルシ主用ノ入八十八夜三百
十日ヲシルスナトノ數頃ニ過ス其外ハ皆切無用ニ
屬ス八將軍ナトイツノ時ヨリ書出セラルニヤ曆法
ニカツテアツカルモノナシ多分道上人方ノ名目ニ
テモアラシカ一向無管ノ妄談ナリ世ニ中段ト稱ス
ル建除ノ名ハ曆法ニ古ク見エタルナレハ是又其
々ノ曲説ニテ其外下段ト稱スル吉日凶日ニナ言ニ
足サルコトトス又方角ノ開塞ヲ云フ大ニ世間ノ害
ヲナス妄誕ナリサナキ又天下愚昧ノ民惑ヤス久

抄備齋叢書 雜著論一 〇九

ト曉シカタキニ曆書ニシカト書アラハシ示スエエ
マス、惑ノ深クメ一向ニ曉サレヌコナリユキ
ケリ嘆スルニ余リアルコナリ先王ノ四誅ノ一ツニ
鬼神時日ヲ假テ以テ衆ヲ疑カハスハ殺ストアリ今
ノ曆書ノ八將金神ハ鬼神ヲカリ中段下段ハ時日ヲ
カリ皆以テ衆人ヲ疑惑セシムルハ尤大レハマサシ
ク先王ノ誅ヲ犯シタルモノナリ實ニ深ク制禁ヲ加
ヘ大ニ曆書ヲ改メタキモナリマツ卷首ハ八將軍
ノ所ヲ殘ラス削リステ、期年三百六十日一切是古
晝夜百刻十二時未嘗有凶ナト、大書シツマヒラカ
ニカナ付テ、ソノ家ノ親先祖ノ

年ニ一度ノ忌日ヲ凶日トシテ吉事ヲ行ハカラス
ナトコトワリカキアルヘシアトハ毎月ノ干支大小
二十四氣土用日月食ナト年分入用ヲヨシミニシテ
餘事伊サラリト削リタラハ淨潔ノ曆書ナルヘシ唐
太宗出陳ノ時ニ或人諫メテ今日ハ往亡日トシ甚不
吉ノ日ナリ延引アレカシト云シニ我往彼亡ノルト
テスクニ軍ヲ出サレ果メ勝利アリシ關箇原大戰ニ
東御出陳ノ時或人諫テ今年ハ西方塞カリナルハ
方違ヲシテ出サセ玉ヘトイヒシニ西令マサニ塞カ
ルユエ我往テコレヲ啓クナリトテタマフニ門出シ
玉七日出度御代トナリタリ明君英主ノ識見前後符

合ト云ヘシ天下ノ大事サヘカクノ如シ况ヤ細民ノ
行事ニ何ソ拘忌泥滞ヲ費スヘキヤ今ノ曆ニ由テキ
トヨ考ヘ示スヨリ起リタルト返スルモ苦ニシキ
ト也凡ソ天下ヲ宰スル入カク英明ノ迹ヲ追テ天下
ノ惑ヲ祛クルトヲ務サルヘケンヤ昔大阪古林以元
祖見宜ハ名醫ヲ譽レアリ或人見宜ニ向テ炙スルニ
惡日アリ又禁穴アリト云トヨ時多然リト問見宜
曰隨分キツトアルトナリト答フ素人ニテモ覺エ才
カルモ亦トノ事ニヤト問トニ入カニ氏覺エヤスシ
惡日禁穴タミ一ツツクナリトアルハ然ラハ何トツ
授ケラレタシト云ト見宜襟ヲ正シテ其傳授ハ年中

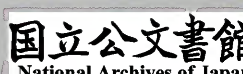
ニテ炙スマシキ日ハ正月元日身内ニテ炙スマシキ
處ハ眼玉ナリト答ヘシ卓見ト云ヘシ其技ニテモ妙
ヲ得タル人ハ見所ノ超邁天理ニ明カナルヲカク
却シマシテ司天ノ職ニテ天地陰陽ノ理ヲ究ムル身
ヲ以テソノ拘泥執滯メ理ニ通セヌ萬人ハ惑ユ德薄
スルハイカナルトニアラシ但シ右ノ人淨潔ノ曆モシ
行ハレタラハ愚民ハ當分日當ヲ失ヒ茫然タルトニ
思フヘケレト年々ツメテ行ハレタラハ其内ニ疑惑
ハ大ニ啓クヘシサレ厄千載ヲ經タル宿惑ニテ上ハ
雲上ヨリ下ハ閻卷マテ申メ解カ子彼是サシサハリ
行ヒカタクアアルヘシ故ニ今日ヨリ即時ニ改ムヘ

シト云ニハ非スコノ意ヲ含ミテ年數ノ後ニ勇改ノ
 機會必スコレアルヘシ故ニマツコノ義ヲノヘオク
 ナリ序ナカラ今一ツイハニニハ彼岸ト云フ民間ヨ
 リ出タル甚人俗事ニテ曆學ニアツカルトナシ是ハ
 說經者ヨリ出タルト昔ニ說經ノ僧徒村邑ヲ廻リテ
 此岸ヨリ彼岸ニ至ルノ佛意ヲ勸メアルクニ多クハ
 春分秋分ノ寒暑ヲ離レテ旅行モシヌス夕又民間ニ
 テ春ハ夕ナ物ヲ取出シ秋ハ稻綿ナト物成入アル比
 ヲ臣トシテ廻タルト例年大ルユ工農人モ春種秋獲
 入比不ツモ彼岸ヲ說勸ル坊主ノ來ル時分ナリトテ
 目當ニシ春ノ彼岸秋ノ彼岸ト云ナラハシタルナリ

今ハ僧院ニ彼岸會ト云フ設ケテ人聚ムヲスルヨリ
 人ノ出ヨキ時節工都會ノ地ナト別メ男女雜遝ス
 ルトニテ說經者ノ廻ル事ハ夕工夕レ氏彼岸ノ名ハ
 ヤハリ盛ナル事ナカラ曆書ハ春分秋分ニテスニ夕
 ルトナリ但シ今日ニテ專ラ愚民ノ目當ニスル事カ
 レハ姑ク曆ノ春分秋分ノ所ニ旁註シ今云彼岸ノ中
 日トシルシオキニ分ヲ今云彼岸人如ク萬民ヨク覺
 工タル上ニテ旁注ヲ削リ忒テヨシ行年ノ曆ニコノ
 タヒ彼岸ヲ二分ヨリ幾日ヌムル退クルナト旁注
 ノアリタルトアリシイカナルトニヤ彼岸ト云ニ足
 サル名稱ニテ何モ測候シテ進退ヲ論スヘキモノニ

非ス又彼岸ヲ七日卜定メタルモ僧言ヨリ出タルナ
 リ天竺ノ法ハ上下四方中卜立テ七數アルヨリ何事
 モ七ヲ以テ紀トスルナリソレユ工彼岸モ七日卜限
 リタルヘシコレア二曆算ニ干渉アラフンヤ
 一正朔ハ一王ノ制ニテ唐虞ノ際義和ノ曆象ヨリコ
 ノカタ王政ノ一重事タリ周室ニ曆ヲ諸侯ニ頒チ國
 ミニテ告朔ノ禮アルコトナト民時ヲ重ニスルノ至要
 タリ我邦古代ノコトハクタミシク云ニモ及ハス今
 日ニ至リ土御門家ヲ以テコレヲ統ラレ關東ニテ司
 曆ノ御設クモ土御門ノ門人トメ事ヲ行ハセラルレ
 ハコレ以テ天下御代官ノ御心ニテ元ヨリ問然ナカ

ルヘキ御事ナルヘシ但シ伊勢曆三島曆ナト云類ヤ
 ハリ關東司曆ノ命ヲ受テ作ルコトナレ其地ニテ各
 自ニ造リ出シテ天下ニ布コユ工モシ愚ノ所謂淨潔
 曆ノ行ナハルニ時節モ至ラハ他ヨリ出ル曆ヲ一切
 ニ堅ク制メ舊ヲ舍テ新ニ就シムヘシ官曆イカ程淨
 潔ニナリテモ他曆ニ舊態存スレハ世間ニテハ却テ
 官曆ヲ疎略トシ他曆ヲ詳密ト思ヒテ宿惑ツヒニ解
 ヘカラス何トソ蜻蛉洲中二日ノ吉凶方之開塞此方
 本ヲキラスヨメ取ラスナトノ妄誕地ヲ拂ヒテ絶果
 ルヤウニアリタシ薩摩ハ昔ヨリ別ニ推歩シテ一國
 ニ用ル曆ヲ造ラルニ由ナリ是ハ極西南ノ地ニテ北



極出地度晝夜ノ刻限日食ノ數ナト少々ノ差異モアル
 ヲ工工ノナリ尤コレモ止御門ノ徒第トメ別ニ門
 戸ヲ立ルニテモナケレ凡侯國ニテ造曆トアルトハ
 イカミシキトナリソノ上サキニ薩曆ヲ閱セシニ晝
 夜刻限ノ外ハ何モ官曆ト替リタルトナシ是マツ空
 疎ナルトナリサテ日ノ吉凶ノ名目同シカラスメソ
 ノ數モ甚多キヤウニ覺工タリ是ハ又拘滯ノ益甚シ
 キモノニテ人ノ惑ヲ生スルモ更ニ多ク別メ無用ノ
 長物ナルヘシ尤モ一國キリニテ外ヘ傳播ハナキ曆
 ノトニテハアレ凡同シク土御門ヨリ受タル法ニ異
 同アルヘキヤウナシ何トソ是ヲ以テ禁切ノ方アル

ヘキモノニヤ

皇子皇女ノ事

當代ニ四親王家ヲ建置セラルニハ繼承ノ御備ヘ天
 下ニ於テ最第一ノ切要ニテ今モ其驗ニ顯然タル御
 トナリサリナカラ年曆ヲ經ルニ隨ヒ屬藉モ次第ニ
 遠クナラセラルレハ數百年ノ後又繼承ノ御トナト
 有ントキ同シ天潢ノ派ト申セ凡遙ニ隔リタル上ニ
 テハ恐ナカラ神人凡ニ安セサルモノアルヘキカマ
 シテ現在ノ四宮モ一宮ハ無主トナラセラルニ後ニ
 特節ノ變ヲ揣レハ四宮モ打揃ヒ生育ノ乏シキ御ト
 アラセラレマシキニモ非スカタニ以テ追々新夕

二宗室ノ設ケハナクテ叶ハサル御事ナランカ萬代
無窮之御事ナレハ後ニ未ニマテモ杞人ノ憂ヲ貽サ
ル下ヲエス一概ニハ云カタケレ先ハ尊貴ノ御
身ニハ字育ノ廣カラヌ多キモノ也然ルヲ中葉已
來法親王門跡ノ下起リ攝關ノ御家ニテモ准門跡ノ
事始マリタマニ多クノ皇胤貴族ノ連枝才ハシマ
シテモミナ自カラ繼嗣ヲ絶セ玉フヤウニナレハ眞
キモ却テ狭クナリ狭キハイヨミニマスニ狭クナ
リエク下定ニ浩嘆天息スヘキ御事ナリ此事數百年
來朝廷ノ典故トナリタル故大弊ト知ナカラモ因循
メスクレハイツノ時何ノ核會ヲ待テ更改スヘキノ

端緒モアルマシ豪傑ノ資超邁ノ見ヲ以テ處置アラ
シニハ斷然トメ今日ヨリソノ制度アルヘキモノカ
異日僉斯ノ化皇胤振ミノ時アリテ遽ニコレヲ議セ
シハ却テ障ル下有マシキニ非ス今ソノ下カツテナ
キニ及ンテ制ヲ設ケオキタキ御事ナルヘシ故ニ竊
ニ愚意ヲ述テカクモアラマホシト思フ下ヲイカハ
カリ恐レ多キ下ナカラ試ミニ左ニシルシオクト云
一皇胤ヲ弘メ懿親ヲ封建スル下殷周ノ昔ヨリ國家
ノ切要トナリタル下ナレトモ嬴秦ニ至リ戰國ニ懲
テ宗室ニ尺土ノ封ナク西漢ハ又是ニ創テ大封ヲ行
ヒ尾大掉カヌヌ賈生ノ慟哭ヲ招クヌウニナリソノ

後モ制度様々ニテ節量ニ過レハ唐宋ノ宗室ノ子孫
 飢寒ヲ免レサルニ至リ明ハ宗室ノ稟給ニテ國計匱
 ヲ告ルニ至レリミナ大過不及ニテ制度ノ宜キヲ得
 サルナリ近ク清國ニナリテ是等人法ヨク整ヒ親疎
 ニ從ヒ厚薄ノ要ヲ得タリト聞ク其詳ナルハ未タ考
 ヘ知ラサル也我邦ニテハ嵯峨帝ニ廿餘人ノ皇子マ
 シマスニ王朝隆盛ノ時ナレト帝ノ睿明恭遜ヲ以
 テヤ四皇子親王ノ宜下ノ外ハ封邑ヲ累子府庫ヲ費
 スヲ厭ハセ玉ヒミナ姓ヲ賜ヒ臣籍ニ列シ出身ノ初
 ハ六位ニ叙セラレシナリト見エタリ仰キ崇フヘキ
 御事ナリ今日ノ成憲又以テ和漢古今ヲ打合セ試ニ

制度ヲ一ツ設ケ見ンニハ此後ノ皇胤諸宮ノ外ハ成
 童マテハ宮中ニ奉育シ成童以上ニ親王ノ宜トアリ
 新宮トシ封戸千石ト定メ二代目諸王ニ八百石三代
 目姓ヲ賜テ臣籍ニ列セラレテ六百石四代目四百石
 五世親盡テ二百石トシ是ヲ永代ノ定祿ト立ヘシモ
 シ御連枝數多マシマサハ嵯峨帝光孝帝ノ御例ニ
 從ヒ二三親王ノ外ハ初ヨリ姓ヲ賜ヒ臣籍ニ列シ初
 祿八百石親盡ルヲ百五十石トシ或ハ生母貴カラス
 輕ク撫育シ奉ルナトハ六百石ニ起リ五世百石ニ止
 ルモノルヘシサテ養子繼續ノヲハ互ニ新舊皇族ノ
 内ニ限リ他族ニハ禁アルヘシ其稟祿ノ總計ハ試ニ

出修齋叢書 草茅危言卷一

先ツ御一代二十皇子ト立テモ千石以下打千交レハ
 高ニ七八千石ノコナルヘシ又皇子皇孫ノ庶子ニ一
 二百石ノ祿ヲ給セラレ小宗ヲ立テモ通計一萬石ニ
 テ事足ヌヘシ國家ノ大計ヲ以テハ少クノ事ニテ洪
 費トスルニ足サルヘシ又ハ法親王ノ空宮トナリタ
 ルモアレハ其祿ノ内ニテ其僧官ニ給スル分ヲ量リ
 留メ其餘ヲ引上ケ右ノ千石ノ數ニ餘ルハ減シ足ヌ
 ハ増テ新宮ニ給シ其家司ヲハ其下ニ移シテ用ヒラ
 レ法宮ノ出來タルトキ還附アリナハ尤簡便ノコナ
 ルヘシ但シ右ニ設ケテ云ルハ皇子ノ數ニナツミカ
 クノ如ク數代ヲ累子ハ稟給モ夥シキ事ニナルヘキ

ナトニ出納有司ノ論モアルヘキカ皇亂果メ然ラハ
 何ヨリ以目出度コニテソノ處置ハイカヤウニモア
 ルヘキモノ也タニ生育ハセンクニ盛衰アリテ同
 シ調子ニハユカヌモノナリ試ニ平安定鼎ノ昔王宇
 隆盛ノ時ニ及ニ觀ルニ其十數代間生育モ蕃ク才ハ
 シマシ又皇子ノ披剃モ風ヲ成サル比ナカラソノ子
 孫ノ蕃滋トテサマテノコモ見エヌ又ソノ處置モ宜
 シクシテ明季ノ宗室ノ天下ノ財粟ヲ病シタルヤハ
 ノコモ見エサリシ始ヲ尋テ終ニ及セハ生育ノコ此
 後トテモ亦然ルヘシ故ニ政ヲ爲ニハ天下後世ノ爲
 ニ皇胤ノ廣キヲ慶シテタニカヲ處置ノ宜シキニ盡

スヘキ耳豈其處置ノ宜カラサルヲ問ス人却テ皇胤
 ノ廣ヲ患フヘケンヤ勿體ナキコナルヘシ
 一皇子皇女ノ出家ヲ遂サセ玉フテ其來ルコト已ニ久
 シ今ノ京ニナリテモハヤ千年ニ及ヘル故實トナリ
 タリサレト其初ハ或ハ病テ披剃シ又ハ事故ニ感メ
 遁世シ玉フコト人類ニテ其時佛法盛ニ行ハルレハ
 皆心ヨリ發起ノ事ナリ其可否ハ姑ク是ヲ才ク既ニ
 甘心ノ上ハ強テ論スルニ及ハス後世ハ門跡尼御所
 ナト次第ニ多ナリタレハ皇胤ハ廣クテモ中ニ引足
 サル程ナレハ親王家ヨリ御養子トシテスワラセ玉
 フコト也其レニサヘ御無住ノ場所追ニ出來ル工皇

胤ハ儲宮ノ外親王家ハ家子ノ外ハ皆御幼歲ヨリ夫
 ノ門主ノ御附弟トシテ悉ク出家ニ定マリコト
 永ク國家ノ制度トナリソノ甘從ト否トハ問ニイ
 マラス今日マテハ諸皇子皇孫皇女ノ處置ハ出家
 ヨリ外ニハナキヤウナル姿ニナリ來リタリ自然ノ
 勢ノ然ラシムルニヤ攝家ノ在門跡モ是ニ類スルモ
 ノナリ愚ハカ子テ竊ニ思フ二人間ニ於テ上モナ
 御身ト生レサセ玉ヒテ人世ノ娛樂ハ十分ナルヘキ
 コナル二人道ヲシロシメサス服飾ノ望ミ飲食ノ欲
 モ絶棄サセ玉ヒ子孫ノ目前ヲ慰メ身後ヲ恃ムヘキ
 聊モナクイトケナキ御齡ヨリ心ノ外ノ披剃ニテ止

世宗實錄卷一
 十八

一ヲ得ス世ヲ厭ハセ玉フト成長ノ上ニテ思シ召
 レンハ限りナク痛ハシキ御事ナルヘシサレ氏既ニ
 法門ニ入セ玉ヘハ戒律ハ嚴重ナラサルヲ得ス萬
 一破律ノヲアリテハソノ御罪モ輕トセス是又餘義
 ナキ御事ナルヘシカタミミ以テ時節モ到來メ右ニ
 例スル如クアリナハソノ御方ニ於テハ降心安意
 コレマタイカハカリナルヘキ伊尹ノ志ニ於テハ四
 海ノ内ニ一夫モ所ヲ得サレハ市ニ撻ルニカ如シト
 アレハ伊尹ノ志ス處ヲ志トセラレン地位ニ在テ
 ミル貴人ノ所ヲ得サセラレサルニ於テハソノ勞心
 苦志イカントオシ量ラルニト恐レミカシコミテ竊

二歎スルナリ

一法親王門迹ノヲハ右ニ論スル如クナレハ追々停
 止アリテモ宜シキモノナルヘケレ氏無テ叶ハセラ
 レサルハ日光ナルヘシ次ニ仁和妙法聖護ナトノ顯
 然タルハ是モ遽カニ廢セラレカタク勢アラシカ是
 ニ因テ竊ニ思フニ日光ハ元來神廟ニテ佛宇ニ非サ
 レハ浮屠氏ヲ以テ主管アラセラルニハ義ノ至當ニ
 ハ非スソレノミナラス兩部ハ後世ニ起リタルヲ日
 光ニ於テハ唯一ナルヘキ御事ナレ氏是ハ始ヨリ止
 了ヲ得サセラレサル勢アリテカクナリ來リシトニ
 テ今サラ改メカタクモノナランカ何フニ主管ニ在

テハ日光別當ナト云ク設ケテ真ノ親王ニテ領シサ
セラルヘキ御事ナルヘシ真親王ニテ祝典ヲ舉サセ
ラルレハ益關東ノ御榮ナルヘシ又東人ノツヒニ上
國ヲ見サル人常ニ冕衣裳ノ光華ヲ仰キ望ムレハ圓
頂方袍ノ姿ト方外ニ見ナストハ大ニチカヒ宮ヲ敬
スル心モ厚ク是ニ就テモ更ニ御威光ノ盛大ナルヲ
知ヘシ尤一代切ニテ他ノ皇子ト替ラセ玉フハ是マ
テノ如クニテ二代目諸王ハ京師ニ歸住アラセラル
ヘシモシ時ノ皇胤廣カラス日光ハ格別ノ御事故ニ
代目マテハ禁裏御猶子ニテスクニ受繼セ玉フ凡
三代目ヨリハ必姓ヲ賜リ歸京アラセラレ他ノ親王

家ノ如クナルヘシ但シ他ヨリハ大祿大御迹ノ事工
上歸京ノ初祿ヲ親王ニ准シ後嗣追々人減殺モ其順
ニナリテ然ルヘカラシカ又竊ニ思フニ中古ハ優婆
塞ノ宮ト稱スルアリ俗ニシテ僧ニ類ニ世ニ在テ世
ヲ出ルト云フナリコノ例ニ據テ停廢シカタキ門主
ハミナ優婆塞ニテ親王ニ宜下有夕シ有髮ニテ髻ハ
カリヲ拂ハセラレソノ寺ノ佛事ニノ法眼潔齋ニ
テ事ニ臨マセ玉ヒ他ハ常人親王家ノ如ナルヘシ正
配ハ有マシキコトナルハ姫妾ノ召才カレ尤一代切
ニテ時ノ皇子又ハ他ノ親王家ヨリ受繼セラルヘシ
モシソノ人ナクハ暫ク無住タルヘシ先宮ニ御男子

御修齋嚴書 草部 卷一

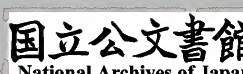
アリ是ハ別ニ立テ諸王トシ直ニ先宮ノ後ヲ受繼
ハナカルヘシ門主ハモト一代キリノヲナレハ也其
諸下ハ何事モ新親王家ニ准シ門跡御家領ノ高キハ
八百石ヨリ起リ御家領ノ低キハソレニ從フ或ハ六
百石四百石ヨリ起リ代ニ減殺ノ差等並ニ姓ヲ賜ヒ
臣籍二人ノ次第ミナ前ニ准スヘシ但シ優婆塞ノ宮
ノ格式萬端ハ常ノ宮ヨリハ一等ヲ降り平生ニ皇族
ヨリ競望ノナキヤウニアリタシソレユ門主ノ御
家領モ迎ノコトニ御代替リノ時ニ減損シ千石以上ノ
ナキヤウニアリタキモノナリ追ニ新夕ニ親王家ヲ
立サセ玉フニナレハミナ平等ニ千石ヲ限リト官ヨ

以定メサセラルニ否ヤハアルマシキ下也且シ門
主ハ下ニ院家ナトノ寺ニ多クソレニモ御家領ノ内
ヲ配分スルモアルヘシモシ然ハ少シニテモ御家領
ノ減スルヲ嘆訴スヘケレ凡ソレハ當分官ヨリ別ニ
給セラレソノ僧ノ一代ニテ後住ヲ立ス寺ヲ減少シ
テ彼寺ノ配分ノツモリノ合テ何箇寺ニテモ追ニ
減スヘシ僧ハモトヨリ一代切ノ者ナレハ跡ノカマ
ヒハナキハスノ事ナリ然レハ一統千石ニ減シテモ
宮方ノ御マカナヒニ於テハイサミカ替ルヲアルヘ
カラス一通リニテハ行ハレカタキ勢モ見ユヘケレ
凡是ヲ以テ考フレハ容易ノコトナルヘシ是又異端ノ

皇極經世一
皇極經世一
皇極經世一

盛焰ヲ抑損スルノ一大機括ナルヘシ猶是ニハ深意
 アレ氏姑ク異日ヲマツ
 一皇女降嫁ノ一ハ古代ヨリ定リタル例ニテ華域ニ
 テ帝乙ノ妹ヲ歸スルヨリ歷代帝王ノ公主ミナ然リ
 中ニツク唐太宗ノ公主ノ王珪ノ子ニ降嫁アリシ舅
 姑ノ禮ヲ正シクシ尤モ美事ト稱ス此類外ニモ見エ
 夕リ我邦ニテモ皇女ハ内ノ外ハ内親王 宣下ア
 リテ伊勢加茂ノ齋宮齋院ニ立セ玉フモアレ氏大庶
 ハミナ羣臣ニ降嫁アリシ一ナリシニ中古ヨリ前條
 ニ述ル如ク尼トナラセ玉フ下次第ニ多クナリ後世
 尼御前ノミ相増テ御幼齡ヨリ尼ト定マリ玉フ一前

條ニ見エシ如ク實ニ莫スヘキノ甚シキナリ殊ニ女
 人ハ貴モ賤モ首飾衣裳ヲ生涯ノ一樂トスル一ナル
 ニ何ノ感悔發起モナクテ緑ノ髪ヲ才口シ墨ノ衣ニ
 身ヲ終ラセ玉フハ是人ミニテモイカハカリ痛ハシ
 キ御一ナルヘキ近世ニテモ親王家攝家マテハ降嫁
 ノ例少ナカラサレヒコノ二家ニ止マル故雀屏ノ
 選ミソノ人ニ乏シク才ノツカラ尼御所ノ方多クナ
 リユクナルヘシ今ソノ選ミヲ廣クシテ降嫁ノ禮ヲ
 定メ親王家攝家ハ云ニ及ハス華族以下マテモ宜キ
 ニ從ヒ武門ハ御三家御三卿又ハ御家門ノ大侯マテ
 ハ苦シカルマシキカサテ神ノ御末トイヘ氏既ニ降



承阿レハ唐ノ太宗ノ芳躅ヲ追テ舅姑夫妻ノ禮儀ヲ
正シ堅ク婦道ヲ守ラセ玉フヘシサアレハ主ニ尚ス
ルヲ願フ家モ多カルヘシカクアレハ尼御所ハ天下
ノ長物トナレハ悉ク停廢シ宮趾ハ火ヨケノ空地ト
ナシオクカ又ハ農商ニ配シ家司ノ分ハミナ親王家
ニ移スヘシ稟祿ハ官ニ收メテ降嫁ノ裝奩ノ資トス
ヘキモノナラン凡ソコノ皇子皇女ノ處置大低コノ
姿ナルコニアランニハ天理ニ於テモ人情ニ於テモ
恐ラクハ至富ノ義ナルヘシ

公卿百官ノ事

公卿以下ノ祿上古ハ口分田位田職田食封田功田ナ

トノ制度アリシコト奈良ノ京大寶中ノ令ニ見エタリ
口分田ハ口ヲ計リ田ヲ受ル人コトニ二段女ハ三分
ノ一ヲ減スト云上ハ太政大臣ヨリ下ハ奴婢マテ均
シク受ルナリ位田ハ正一位八十町ニテ今ノ見穀二
千石ニ當ル從一位七十四町今ノ千八百二十石正二
位六十町今ノ千五百石從二位五十四町今ノ千三百
五十石ナリ職田ハ太政大臣四十町今ノ千石左右大
臣三十町今ノ七百五十石大納言二十町今ノ五百石
ナリ食封ハ官ニモ位ニモツキテアリ太政大臣三千
戸今ノ六千石左右大臣二千戸今ノ四千石大納言八
百戸今ノ千六百石正一位三百戸今ノ六百石從一位

二百六十戸今ノ五百二十石正二位二百戸今ノ四百
石從二位百七十戸今ノ三百四十石ナリ功田ハ人ニ
ヨリ事ニヨリテ賜ル故ニ定數ナシタニ大切ハ世ニ
絶ス上切ハ三世ニ傳ヘ中切ハ二世ニ傳ヘ下切ハ子
ニ傳フルヲ以テ差等トスル由ナレハ姑ク切田ヲサ
シオキソノ餘ノ三田封戸ノ高ヲ今ノ石數ニテ計リ
見ルニ正一位太政大臣ニハマツ口分田ヲ一家五百
口ト立テ百町ナレハ二千五百石ナリサテ位田職田
食封ヲ合セテ總計見穀一萬二千石餘ナリ從二位大
納言一家二百口トシテ口分田千石二位田職田食封
ヲ合セテ見穀四千八百五十石ナリコレ其大略ニテ

ソノ餘ノ差等推テ概知スヘシサテ今ノ京トナリテ
隆盛ノ餘リ大權藤氏ニ移リシヨリ封戸盛ニナリ人
庄園ノト起リ或ハ上ヨリ賜リ或ハ豊富ニ乘シ買集
メテ私領トスルヨリ播紳一統ニ華侈ヲ極メ遊衍ヲ
專トス三風十愆集リ競フヤウニノミナリユキ源平
ノ亂ニ及ヒテ王室始テ衰シヨリ鎌倉室町ヲ經テ武
微日ニマシ應仁ノ板蕩ニ大内ノ供御サヘ給セ又程
ノトナレハ京畿王宮ノ邑ハミナ武人豪族ノ侵奪ス
ル所トナリ公卿以下往々離散シ外藩ニ寄食シ國侯
ノ滅セシ時命ヲ併セラレシモ多ク苦ミシキトナリ
シニ織田氏ニ至リ京畿ヲ平治シ頗ル朝典ヲ振起シ

朝士ノ廩祿モ支給アリシカニ事ナホ草昧ニメイマ
夕周備セス豊臣氏興リテソノ功ヲ繼ソノ事ヲ完フ
セラレ諸縉紳ソノ家世閥閥ニテ祿ノ甲乙モ定リタ
レモソノ中ニハソノ強壯ニテ專ラ勤仕アリシハ祿
モ厚ク附テ幼弱又ハ多病ニテ勤仕ノ勞ナカリシハ
祿モ薄定リタルモ有ヘシ是ハ勢ニ於テ然ルヘキ
也御當代ハコノ成規ヲ承繼セ玉ヒ慶長季年ニ尙又
祿爵ノ御沙汰アリテ永制トナリタリ是モ大氏ハ先
規ニ遵ヒ因セラレ玉ヒテ損益スル所知ヘキモノナ
ランカシ既ニ永制トナレハ家祿ニ於テハ賢ニテモ
増加スル所ナク不肖ニテモ減少スルコトナシ萬代無

窮ノ定メナレハカクモアルヘキ御事ナリ但シ泰平
日久キニ付天ハ朝士ノ風才力ヲカラ頽弊シ行誥不
学アルハ晨ニ向ノ星ニテ浮靡放逸ナルハ風ニ從テ
ノ葉大ルヘシサテ又定祿ヲ恃ミテ賢ニテモ増加ナ
キノ勤仕ヲセシヨリハ不肖ニテモ減少ナキハ遊惰
ニ從ントノ心ニテ日々荒蕩ニ就セラルルハ勢ト見
エタリ又ミナ華胄名族格別人トシテ正萬一罪科アル
テ救勘配流人トアリテモ罰ハ當身ニ止リ其家ニ於
テハ別條ナシコレ天恩ノ廣慈ナレモソレニ至テ是ヲ
恃ミテ又怠傲ヲ啓クヤウニモナリユクカ何分コト
風ヲ齊整セサレハ京師ノ根本淨潔ナラス又シテモ

御參齊養書 皇統紀 卷一
二

ハ皇威ヲ損スル方ニモナリユクヘシ苦ミシキ下也
是ニ因テ思フニ古ノ位田職田封戸ハ今變メ家
常祿トナリタレハ其儘也外ニカノ功田ヲ再興シ家
祿ニ應シ功ノ大小ヲ照シ五石十石ヨリ段々差等ヲ
立テ三百石ニ止リ廩米ヲ以テ田ニカヘ官ヨリ追々
支給ノ備アラセラレサテ搢紳中ノ朝ニ立謹恪純良
衆人ノ模楷トナリ或ハ家ニ在テ孝弟恭儉ニシテ
門肅穆シ或ハ才學優長詞藝俊秀ナル或ハ其家業ノ
學問才藝精熟英發セル類一時ノ公論ヲ合セ考ヒテ
功田ヲ賞賜アリナハ風勸スル所盛ニナルヘシツノ

不肖ナルハ姑ク置テ問サレハ才ノツカラ觀感激厲
スル所アリテ次第ニ善ニ遷リ過ク悔テ舊風ハ一變
ニ至ルヘシ所謂舉直錯諸枉能使枉者直モノ是也サ
テ初年ハ見在ニ就テ論定テ賞セラルヘケレ其後
ハ古代ノ如ク三年ニ一考九年ニ三考ヲ待テ賞アル
ヘシ一身ニテ幾回賞ヲ累ヌル任當身一代ニテ跡ハ
常祿ニ復スヘシ又末々ノ朝士廩祿ノ至テ薄少ナル
ハ平日勤仕ノ章服サヘ辨シカ又ヘク一家ノ生計ヲ
如何謀ラセラルヤト怪シキマテニ思ハルニアリ
故ニ其冠昏死喪ナト不時吉凶ノ須メ一向出ル所ナ
ク寔トニ痛ハシキコ也其人賢才ナルハ格別ナレ任

大ヤウハサセルヲモナケレハ困乏ニテ心モ鄙シク
 ナリカノ窮スルコトニ濫スルト云ニテサマミ宜
 シカラヌヲノミ出來テ大ニ風習ヲ敗ルヲニナリ來
 リタリコノ分ハ隨分吟味ヲ加ヘ寸長微善ニテモ采
 録シ三考ヲ待ス凡少々ノ功田ヲ支給アリナハ涸轍
 ヲ濡スノ公恩洪大ニテ風習ヲ挽回スルノ効モ尤モ
 速カナルヘシ其大要八年ニ二千石内外ヲ出スニ過
 スメ事足ヌヘシ費ス所サマテノコナクテソノ益ヲ
 得ルコト莫大ナルヘシ

一 堂上元服ノ式ハ古代ヨリ禮儀嚴重ノ事ト聞及ヘ
 リ然ルヘキ御事ナリサレモ悉ク幼齡ノ日ニ行ハレ

元十歳以上總角ナルハ罕ナリト聞クソレニハ古
 禮ノ幼志ヲ棄テサセ成人ノ禮ヲ責ルノ意ハ荒矣ト
 云モノニテ然ルヘカラサルノ甚キナリ是他ナシ堂
 上ハ家ニニ官位ノ先途アリテ段々昇進ニ年曆モ亦
 シル下子正ソ急キヨリ元服ヲ促サルニナリコレ
 ハ奔競ノ態ニテ風ヲ敗ルノ端ヲ啓クナリ何上ソ司
 馬温公ノ十五以上孝經論語ニ通スルヲ待ト云ルニ
 依ヘキ下ナレモ今日ノ勢ハ童形ノ身ニテソレ程ノ
 業ニ及ヒカタルヘケレハ夕々素讀手跡一通リカ
 タモツキ其家々ノ學問技藝ノ山口モ啓ケタル程ヲ
 見合セテ必ス十五以上ニテ元服ノ儀アラセラレタ

キモ人ナリ五年七年先途入遅キトテ是ナ二人管ス
 ルコトノアルヘキイハシヤ今日ハ聖明人朝ニ遭
 遇セル諸縉紳ナレハ子弟ノ幼弱ヨリ教育ノ法宜シ
 ク成人ノウヘニテ行義才學ソロハセラレハ先途ノ
 昇進モオノツカラ速ヤカナルヘシ是ハ昇進ヲス
 ヤカニセントニハ文ヲサレテ所謂祿ノ中ニアル
 ナルヘキハミコレヲノ正道ノトヲツトメスメ唯一
 向キニ元服ヲノミ急カセラレハ恐クハ苗ヲタス
 ケ長スルノ類ナルヘシ
 一婚禮ハ人倫ノ始メ邦家ノ基ニテ甚タ大切ノコト
 ナルニ我邦ニテハイカニハ故ニヤ古來雲上ニ於テ

婚姻ノ禮ハ絶テ見エス大寶ノ令條ニモ嫁娶ノ式ハ
 カツテナシ至尊ノ配ニ皇后中宮冊立ノトハ正シ
 ケレ氏其始メヲ要スレハ墻茨ノ拂ヒカタキニ出タ
 ルモ多シ况ヤ宗室羣臣ニ在テ帷薄ノ修ラサルコト
 切ノ風習ナリ今ノ京トナリテ朝廷隆盛ノ間ハ聘唐
 ノ命相繼テ何事モ唐禮ヲ受行ハセラレ典章文物彬
 ミタルコトナリシニ婚儀ノ式ノコトハ何ノ沙汰モナク
 舊風マスミ盛ナルコトニテ伊勢源氏空想竹採等
 ノ諸草紙ハ往々寓言假托ニ出タルモノナレ氏ソノ
 時世ノ風ヲ模寫スルハミナ信メ徴アリト云ヘシ我
 歌ノ専ラニ行ハレシモコノ故ノコト也紀秘書ノ古今

集ノ序ニ嘆息ヲ發シオカレシマサニコトニアリ其
風ツヒニ朝廷ノ衰繼マテニ及ヒタリソノ後喪亂久
シクシテ後ニ定マリタレハ事一變シテ誰始ムルト
モナク朝紳間ニ婚禮ノ儀起レリ或説ニ慶元間ノ官
命ニ出タリトイヘ氏御式月ニハ見エサレハソノ如
何ニヲ知ラス其後追々武門ト婚ヲ通セラルニ及
ヒテハ公武打交リテマスニマ式モ定マリタルヤウ
ニ見ユレ氏タミ家ノ仕來リト云ヤウニテ今ニ雲
上一統ノ通式アリトハ聞エス總メ儀文制度ノ備リ
テ天下ノ根本トナル朝廷ニ此事ノ闕如タル事洵
トニ惜ムヘシ只イマ堂上ニテタカヒニ嫁娶アルハ

モトヨリ父母ノ命媒妁ノ言ニテ聘スレハ妻ト云ニ
マカヒハナキヲモ朝士ノ間ニテコレヲ稱スルニハ
誰某ノ女ヲ御竊ミト云ソノ言今ニ存スルヨシ大ニ
義ヲ害スルヲナリ何トソ奏議ヲ經テ禮官ニミコト
ノリアラセラレ先王ノ古禮ヲ斟酌シ今日ノ式ニト
リ合セ朝廷ノ永制ヲタテオカレタキ御事ナリコレ
治サタマリテ禮ヲ制スルトアル意ニモ叶フヘキモ
ノナリ
一堂上ハ高下ヲ問スイツレモ門地名望格別ノコトニ
テミナ凡人ノ種ナラ子ハ系譜ニ於テハ尤モオモン
セラルヘキ御コト養子ノ節他姓ヨリノ相續ハアル

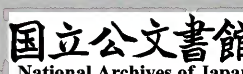
出終續後書 草部絶言卷一 三

マシキハスナリステ二元和元年御サタメノ公義御
式目ノ禁中並ニ公家衆法度十七箇條ノ内ニモ養
者連綿但可被用同姓女縁其家督相續古今一切無
事トノ古見エタリシカルニ昇平已來イカミノ
ヤ他姓ノ相續彼是トオコリ今ノ三事ノアタリモア
ルヒハシカルカナレハ是ハ草野ノアツカリ議スヘ
キニ非ス何フン是マテノハソノマミコノ後ヲ再
ヒ禁セラレタキモノニヤ

國家制度ノ事

凡ソ祖宗ノ制度ハ後世ツミシミマモリテミタリニ
ヘンスヘカラサルヲハ元ヨリニテ王安石ノ新法ヲ

以テ家ノ世ヲ傾ケタル類ハ後世繼續ノ君人夫ニ才
ヲシテ深ク戒シムヘキ所ナリサレモ祖宗ノ時深慮
遠圖アリテ著シテ永制トナリタルモ又是ハイソ
マテモ遵守アルヘキコサレモ便宜ノ制ニテ當分ニ
定マリシヲ後嗣其マニ受繼セラレテ永制トナリタ
ルモアリ又ハ舊來ノ風習ハ草昧ノ間ニ俄ニ變シ難
ク先其儘ニ立置レ治平ノ定レル日ヲ待セララルモ思
召テカラツノ姿ニテ年ヲ經レハ何ト丈久永制トナ
リタルモアルヘシ後嗣ニ在テハソノ守ルヘキハ隨
分堅ク守リ今日ニテ又宜シキヲ揣ルヘキハ祖宗ノ
意ヲ體シテ改葺スル所アルモ亦旦夕志ヲ繼ト云ヘ



シ但升平ノ日ニハ因循ハシ易ク改革ハシカクモ
ノ也先ハ改革ナクテモ諸事穩カニスミクナリ
且又ニハ力ニ變更スル所アルハ四方ヲ觀聽ヲ駭カ
シ人心モ動搖セシカト恐レアリテマツ見合ヒテ折
モアルヘシトテ延引スルコト多キモノナリヨリ折モ
アラニシムハトテ今人ハ後人ニ譲リ後人ハ又後人
ニ託スルヤウニナリユクハ太平ノ世ハ優柔不斷ノ
習弊ニテツヒニハ泰ヨリ否ニユクハ基ト大志トニ
テ畏ルヘキコトナリ今ハタカニル文明ノ時ニ當リ微
猷善政日々ニ新タニ月々ニ盛ニシメ海内日ヲ拭テ
感戴スレハ舊來ノ制度ニ於テモ祖宗ノ意ヲ體シテ

御代ヨ景仰儀形スルヤウニアラセテ
三十一

追々宜ク量リ變革ノ善美ヲ盡サセ玉ヒ數百年ノ後
ヨリモタニ此御代ヨ景仰儀形スルヤウニアラセテ
ルヘキ御事ナリサレハ變革ハ大功ノ義ニテ事ニ大
小アリ勢ニ緩急アリ急ニメ小ナルハ目前ニ施行ス
ヘケレハ緩ニメ大ナルハ歲月ヲ積テ人心悅服ト上
ニ漸ク以テ施行スヘシ故ニ革ノ卦ニ巳日乃孚ヲ示
サレタリソノ六ニノ爻ノ辭ニ巳日乃革之征吉无咎
ト見エタリ程傳ニ曰以六居柔順而得中正又文明之
主上有剛陽之君同德相應中正則无偏弊文明則盡事
理應上則得權勢體順則无違悖時可矣位得矣才足矣
處革之至善者也然臣道不當爲革之先又必得上下之

御代ヨ景仰儀形スルヤウニアラセテ
三十一

信故已日乃革之也如二之才德所居之地所逢之時足以黃天下之弊新天下之治當進而上輔於君以行其道則吉而无咎也不進則失可爲之時爲有咎也善力大經ノ言傳ノ古字ニ句ニ變革ノ要ニ中ヲサル父ナシ又今日少主賢輔ノ御時節ヲ考フルニ秦ノ九二人交ニ的當セリソノ交辭ニ曰包荒用馮河不遐遺朋亡得向干中行程傳曰二以陽剛得中上應於五、以柔順得中下應於二君臣同德是以剛中之才爲上所專任故二雖居臣位主治秦者也所謂上下交而其志同也故治秦之道主二而言包荒用馮河不遐遺朋亡四者處秦之道也人情安肆則政舒緩而法度廢弛庶事無節治之、道必

有包含荒穢之量則其施爲寬裕詳密弊革事理而人安之若無含弘之度有忿疾之心則無深遠之慮有暴擾之患深弊未去而近患已生矣故在包荒也用馮河秦寧之世人情習於久安、於守常惰於因循憚於更變非有馮河之勇不能有爲於斯時也馮河謂其剛果足以濟深越險也自古泰治之世必漸至於衰替蓋由狃習安逸因循而然自非剛斷之君英烈之輔不能挺特奮發以革其弊也故曰用馮河或疑上云包荒則是包荒寬容此云用馮河則是奮發政革似相反也不知以含容之量施剛果之用乃聖賢之爲也不遐遺秦寧之時人心狃於秦則苟逸而已惡能復深思遠慮及於遐遠之事哉治夫秦者當周

及庶事雖遐遠不可遺若事之隱微賢才之在僻陋皆遐
遠者也時秦則固遺之矣朋亡夫時之秦則人習於安其
情賦而失節將約而正之非絕去其朋與之私則不能也
故曰朋亡自古立法制事牽於人情牽不能行者多矣若
夫禁奢侈則害近戚限田產則妨於貴家如此之類既
不能斷以太公而必行則是牽於朋比也治秦不能朋亡
則爲之難矣治秦之道此四者則能合於九二之德故曰
得高于中行言能配合中行之義也尚配也コレ又字
句、今日ノ實際要務ニ非ルハナシ凡ソ愚ノ歎、セ
ント欲スル所ノモノニ卦ノ傳已ニ盡シテ復餘蘊大
シ愚ノ上文ニ條陳スル所又ハコレ次ニ追々記セシ

ト思フコトミ大比意ヨリ推及ホスナリヨリ卷公五ト
ヨリヒトニ示スモノニハアラ子ト試ニ或人ノ駁ヲ
設クテイハシニ改革ノ建議ハ何モアルコトヲ泰平無
事ノ日ニ當リイラサルコトニ賢知ヲ以テ自ラ居ル
又下トシテ上ヲ議シ事ヲ好シテ舊章ヲ紛更變亂ス
ルノ罪ヲ得ヘシナト聞エシハコレ愚人不肖深久懼
レヲイタク肯綮ニ中レモ總メ何事モ舊法ニ因循ノ
宜シケレハ今サラ何モ建明スヘキコトヲ三聊モ建議
スレハ改革ニ及ハサルコトヲ得ス是ハ罪ヲ得トテ
辭スヘカラサルモノアルカ又ハ駁メ草味人時夫レ
ハ格別モハヤ二百年ニ近キ承平人由ニ假令理ニ中

世修齋叢書 卷一 三十一

リタルヲコレモ改革ハ宜シカラス時既ニオクレタ
リ且祖宗ヲ非トシ先代ニマサラントスルノ病アリ
ナトイハシハ然ラス凡ソ草昧ノ時ハ臨時權宜ノ制
多ク永制ハ遽ニ定メカタキモノナリ魯ノ兩生ノ拘
滯ナカラモ百年治定リテ禮ヲ作ルト云テ叔孫通ニ
與セサリシモ一埋ナキニ非ス武王ノ聖ヲ以テサヘ
禮ヲ制シ樂ヲ作り一代ノ制度ヲ定ムルハ成王ノ世
ニ當リ周公ノ手ニ出タリアニ時オクレタリト云ヘ
ケンヤ又成王アニ武王ニマサラント欲スト云ヘケ
ンヤ漢ニテ文景ノ間ヨキ時節ニ當リタレハ賈生モ
カヲ極メテ是ヲ論シタリシニ文帝ノ謙讓不違トア

リシハ美德ハモトヨリナカラ一ツハ藩土ヨリ大統
ヲ受ラレ間モナキユエ遠慮ノ深ク過タルト又ハ質
美ニメ學ノ到ラサルトニモヨルヘシ遺憾ナキニ非
ス景帝ノ時ハ改革ノシカタ宜シカラスシテ七國ノ
反ヲ引出セリソレハ處置ノヨロシカラヌノ非ニテ
當御代ハ萬代無窮ノ御事ナレハ二百年ノ星霜モ久
シカラヌニハアラ子斥千載ノ後ヨリ今ヲ見レハ降
治ノ山口トモ云ツヘシ往時寛永寛文ノ間ハ休明豊
富ノ運實ニ漢ノ文景ノ時ニ似タレ氏打ツキ早ク
御厭代ノ上ニ名臣良佐ノ一時ニ傑出アリシモ文教
未タ開ケサル故ニ聖學ヲ明ニシ古今ニ通スルノ器

識ヲ得サセラレサリシコトコレ時運ノ然ラシムルニ
 テアナカク備ハルヲソノ人ニ求ムヘキニ非ス夕ニ
 ソノ機會ノ未夕到ラサリシナルヘシ今日ハ享保中
 興ノ餘烈ヲ受玉ヒ大有爲ノ時ニメ大有爲ノ人イマ
 セハソノ施爲ノヤスキハ屋上建瓴ノ勢云ヘ夕實
 ニ千載ノ一時ナルヘシサレモ愚ノ陳列スル所妄リ
 ニ逐一施行アレカシト願フニハ非ス是又時ヲ量リ
 宜キヲ揣ルノ權アルヘク又閭閻ノ底ヨリ廟堂ノ上
 ヲ擬議スルコトナレハ頗ル齟齬ノ愚慮ノ外ニ支障ル
 コトモアルヘシ是ハ云ニ及ハス夕ニ大有爲ノ人ノ揀
 擇取舍セサセ玉フニアルノミ

宗廟ノ事

我邦ハ王室ニテモ古來夕ニ陵園ノ式備リタルノミ
 ニテ廟制ノ定メハ聞エス令條ナトニモ絶テナシ中
 葉巴來ハ山陵モ夕ニ佛寺ニ寄寓シテ別ノ設ケハナ
 シナリ今ハ泉涌寺ニ數十代ノ塋域疊々メ列シ玉ヒ
 ソノ寄寓ノ寺ヲサシテ廟所トシ玉フヤウニ見ユレ
 凡四親廟祧廟ノ差別アルニ非ス武門モ是ニ准メ一
 向サシ定マリタル制度ヲ聞ス鎌倉ハ一再傳ニテ亡
 ヒタルユエモトヨリ論スルニ及ス室町ハ等持院中
 ニ今一字アリテ十三代ノ塑像ヲ安置セリ別ニ祧廟
 ノ設ケモナク昔ハ一廟一主ナリシヤ又ハヤハリ今

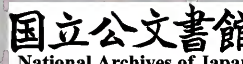
ノ如ク同殿ナリシヤ何フン迭毀ノ制ハナカリシト
見ユ十世ヲ過テモ盡ク祀ルト云ハ天子ノ制ニモナ
キコナリ當御代ハ祖廟ノ御設ケ尤モ顯嚴ヲ致サセ
玉ヒ變世ノ廟制モ備リタル御事ナカラ祧制ハイマ
タ行ハレス是ハ當初ハ御入用ノナキコトユ工後世
子孫ノ建議ニ托シ玉フナルヘシ萬世無疆ノ御事ナ
レハイツレコノ御定メナカルヘカラスシテ今日ナ
トハモハヤソノ時ナルヘシ明君享保録ニ享保御代
始メノ上意ニ兼テ仰セ置カレケルハ凡ソ天子ハ七
廟諸侯ハ五廟大夫ハ三廟卜禮ニアリ然ルニ當家既
ニ上野竝ニ増上寺ノ廟所七廟アリテ天子ノ如シ是

武家ノ法ニ過テ聖人禮記ノ心ニ叶ハス然レモ有來
リタルヲ毀テ仕廻シ様モナシ唯々當時日本人禮儀
善美ニナリテ禮儀ノ真實ニ叶ハス予今ニモ相果ナ
ハ東叡山ノ常憲公ノ御靈屋卜相殿ニスヘシト上
意遊ハサレシト見エタリコレヨリ同殿ノ制興リ今
日ニ至レリ元來七廟ノコトハ思召ニ叶ハセラレサル
事ナカラ御謙讓ノ美意ニテ祧毀ニモ及ハセラレス
權時ノ制ヲ以テ同殿ノ定ヲ創セラレソノ已來是ヲ
遵奉セサセ玉フテ寔ニ餘義ナキ御事ナルヘシサリ
ナカラ萬代無疆ノ内ニ同殿モツヒニハ塞カリタト
ヒ三主四主同殿トナルモ時有テ敷モ滿ヘシ况ヤ幾

皇極經世一
卷一
三十七

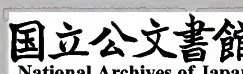
十代モ同シヤウニ奉祀有ニコハ天子ノ制ニモナキ
 丁ナルヲヤ今日モハヤ十代ニ及ハセラレタル時ナ
 レハ麟毀ノ制ハ立玉ハスメ叶ハサル丁ナルヘシ四
 親廟ノ上ヲ次第ニ黜スルハ少シモ不敬ニ非ス少シ
 モ不順ニアラス是聖人ノ中制ニメ天理ノ當然ナレ
 ハ後代ノ模範ヲ垂ルト云モノニテ聊モ擬議ヲ容ル
 ヘキニ非スカシ愚ハカツテ竊カニコノ事ニ於テ和
 議ヲ設ケ會ミシコアリ今ソノ説ヲ左ニ詳ニス
 一天子ノ七廟諸侯ノ五廟ハ禮記及ヒ諸書ニ見エテ
 千載確然タル事トスシカシ五廟ハサモアルヘシ七
 廟ニ於テハ遺議ナクハアラス先儒ノ説ニ陶虞夏后

氏ハ天子モ五廟ト云ヘ凡是ハアマリ古キ丁ニテ明
 證ナシ尙書伊訓ニ七世ノ廟可以觀徳トアルヨリ七
 廟ハ殷ニ始マルトイヘ凡愚ハ深クコトニ疑アリイ
 功ニトナレハ凡ソ七廟ト云ハ太祖ノ廟ノ外ニ先代
 ノ功德盛ナルヲ太宗高宗中宗ナト稱メ百世不遷ノ
 廟トス故ニ一祖トニ宗トニ四親ノ廟ヲ合テ七廟ナ
 リ殷ノ湯王契ヲ祖トシテ四親ノ廟アルヘシソノ時
 別ニ不遷ノ宗アルヲキカス伊尹ハ湯王ヨリ太甲マ
 テノ間ナリ太甲ノ時ニ湯ハナホ四親ノ内ナレハ七
 世トスヘキコトナシ後ニ至リ四親ノ外ニ契ト湯トヲ
 以テ六親トスト見エタリ又ソノ後ニ高宗ヲ加ヘテ



七世ニナリタルモ知ラ子氏ソレハ伊尹ヨリ遙ニ後
 ソコニテ伊訓ノ七世廟ノ證ニハナラス大氏尚書ハ
 古文ニ屬スル分ハ疑シキト甚多先儒モ其説アレハ
 伊訓モ古文ノ方ユエ深ク據信スルニ足ラス然レハ
 殷ニハ疑ヲ闕テ七廟ハ周ヲ始トスヘシ周ハ右穆ヲ
 太祖トシ文王武王ヲ祖宗トシ四親廟ニ加ヘテ七廟
 タルコト明白ナリサレモ是モ周公ノ成王ヲ補佐シ禮
 樂ヲ定メラレシ時ハ大王ノ季文王武王ニテ四親ナ
 リ大王ヨリ上ニハ宗ト立ヘキモナクソレ故ニ追王
 モ大王マテカレハソノ時ハ太祖ト合セテヤハリ五
 廟ナルヘクソノ後成康昭ノ王ニテ經テ穆王共王ノ

時ニ始テ六廟七廟ト定マリシナルヘシモ文武ノ
 功德ハ云ニモ及ハヌコトユエ周公ノ禮ヲ制セラレシ
 日ニ後ニ親盡タルトキ文武ハ百世不遷ノ廟トスヘ
 シト兼テ定メオカレタルコトハ有マシキニ非ス何フ
 シ周ハ全ク文王武王ニ因テ七廟トナリシナリモシ
 ンノ前後ニ功德ノ才トラヌ明君アリナハ八廟トモ
 ナルヘシ必ス七ニ限リタルコトハ非スサシ
 アタリ周公ノ德ヲ以テモシ繼續ノ君アラハアニ七
 廟ニ拘ハリテ其廟ヲ毀ツヘケンヤ天子七廟ト堅ク
 心得タルヨリ後世ニ功德大クテモ強テ増テ七數ニ
 備ヘタルナリ然ラハ功德ノ君多クアリテモ推テ減



テ七數ニ止ルコトセシヤ甚夕然ルヘカラサルコト也
周ノ世ハ衰ヘナカラモ長ク續キタレハ七廟ト云フ
數百歳云ナラハ禮記等ノ諸書ニモ多ク出タルコト
工周一代ノ制ト云ニ心付ス何トナク天子ハ通世ト
覺ルハ後世ノ諸儒深ク考ヘサルノ誤ナリ九廟ト王
莽ノ制ニ出タルハ云ニ足サレモ後世ニ至リ唐ノ制
モ九廟ト見ユ宋史ニモ凡ソ九廟同殿異室トアリ又
元豐元年中ニ定テ八廟トスルモ見エタリ然レハ今
日ニテモ制度ノ立ヤウニヨルコトニテアナカク東關
ノ七廟ヲ僭トシテ嫌ハセ玉フニ及ハサルヘシ今其
制ヲ設ク見ニマツ王室ハ故例舊格ヲ堅ク守ラセ王

フ御事ナレハ今サラ妄リニ新規ノ議ヲ建ツヘキニ
アラス夕トヒ議シ得テヤミ理アリトモ萬ニ行ハレ
ヌコナルヘケレモ内心ニカクモアラマホシキト思
フコトヲ試ニ述ルナレハ何ヨリモ王室ニ四親ノ御廟
ノナキコト恐ナカラ事ヲ欠タル義ニテ明王ノ孝ヲ以
テ天下ヲ治ムルノ意ニハ齟齬スヘシモシ神ノ御裔
ノ御事ユ工人間ノ制度ヲ以テハ推ヘカラストナラ
ハ御歷代ミナ神ニ祝ヒ奉ルヘキ御事ナリソレモナ
クテタミ園陵ハカリナルハ何モ穩當ナラヌ方アル
ニヤソレモ時ニ從ヒ一旦ヲ揣レハ今サラ周室ノ太
祖二三昭三穆ヲ分チ設ルヤウニト擬議スルニハ非

出參齋後書 草部 卷一

ス夕ニ是今ノ園陵ノ存セル寺中ニ就テ少サキ神祠
ヲ四社設ケタル如クニシテ茅茨采椽ノ古ヲ慕ヒ黒
木ノ御所木ノ丸殿ナト云如クアリナハ他人祠宇寺
觀ノ侈靡ヲ戒シムル爲メニモ宜シカルヘク又ハ夕
ニ一字ヲ設ケ趙宋ノ制ノ如ク同殿異室トスルモ簡
當ナルヘキカ因テ其國忌ヲ置テ歳ニ一タヒ敕使ヲ
以テ高曾祖考ノ四世ヲ祭奠アラセラレソノ餘ノ四
時節序ノ祀典ナトハ其有無疏數ノ制ハ尚マ夕宜ニ
從フノ方アルヘシコレ第一ニハ恐ナカラ今日 聖
主ノ孝順ノ御心ニ日出度思召セラルヘケレハ廷議
ニ於テ嘉納アルマシキニ非ス又國家ノ經費ニ於テ

ハサヒル事モナク咄嗟シテ辨スヘキモノナリ是其
義ハ至テ重クシテ其施設ハ甚夕輕易ナリ其人心ニ
關係スルハ甚夕大ニシテ聊モ世ノ觀聽ヲ駭スヲナ
シ故ニ愚ハ竊カニ其アラマホシキヲ願フ也サテ上
世祖宗ヲ論スルニ伊勢内宮ハ 天照太神ニテ大祖
ノ廟外宮ハ原廟ナリ加茂ハ 神武天皇ニテ人主ノ
始祖ノ廟下鴨ハ原廟也宇佐八幡ハ 應神天皇ニテ
世宗ノ廟百世不遷ノ類ナルヘシ雄德山ハ原廟也伊
勢加茂ハ元ヨリ始祖ナリ又人主ノ世系ノ尤明白ヲ
得タルハ一應神以降ニテソレ故始祖以後ノ始祖ノ
心ニテ甚夕重セララル御事ト聞傳フ世ニ大坂ノ小

橋博勞ノ宮並ニ高津ノ宮ハ仁徳天皇ナリト云傳
 フ古今第一ノ聖主ナレハ血食ノ長キモ當然也其功
 徳ノ盛ナルハ高宗氏稱スヘキノ類也又志賀ノ舊京
 ニ天智天皇ノ御廟アリト聞傳フ果々然ラハ是ハ
 織冠公ノ良佐ヲ得テ中興ノ明主タラセ玉ヘハ中宗
 ト云ノ類ナルヘシ是皆不遷ノ宗トタテ奉ルヘキ者
 ニアラン或ハ新タニ上世ノ功德ヲ論セハ尚又品モ
 アルヘケレ氏既ニ廢スルハ舉サルノ明文モアレハ
 夕々有來リタル祠廟ニテ宗教ヲ擬議スルノミ一説
 ニ伊勢ノ外宮ハ國常立也加茂ハ武甕槌ナリ博浪
 ノ宮ハ稻荷ナリ高津ハ姫古曾ノ神社ナリトモ云座

祝輩是等ヲ神秘ト稱メ奥妙不測ニメ摸索スヘカノ
 サル事トシ好ニテ其説ヲ神異ニス今愚意ヲ以テ竊
 カニ是ヲ考ルニ伊勢ハ内外ノ同異ミナ神世ノ古ヘ
 ニテイツレモ上祖ノ御事ナレハ存メ論セスモ可也
 加茂ハ國史ニ欽明帝ノ御宇ニ始テ加茂祭ノ行ル
 ニ見エタリ是ハ別神ト見ユ天武帝ノ時ニ營加
 茂神宮トアリ脩ト云スメ營ムトアルハ創造ノ心也
 コノ時神武ヲ合享アリシヤ又別ニ祖廟ノ設アリシ
 ヤ博勞モ高津モ初メハ合享ナリシモシレス既ニ攝
 津志ニ博勞神祠祀仁徳天皇高津宮比賣古曾神社後
 配享仁徳天皇ト見エタリコレ俗傳人ニニアラス京

師北野ノ菅廟ハモト聖廟ニテ菅公ヲ配享セル也喪
亂ノ後配享主トナリ孔廟ハ廢シタミ聖廟ノ名ノ
今ニ殘レルナリ外ニ此類多カルヘシ何分ニ神秘ハ
依違可シテ決斷スル所ナケレハ是ヲ舍テ今日萬
人ノ稱スル所ニ從テスムナナルヘシ右ノ如クナレ
ハ二祖二宗トイヒテモヨシ三祖三宗ト云ヒテモヨ
シ二祖三宗又ハ三祖三宗ト立テモ不可ナシ是ニ四
親ヲ加ベテ八廟九廟十廟ノ内イツレニ取氏是ヲ我
邦天子ノ制トシ今日ノ諸侯ハモトヨリ五廟ニ從
フヘキモノナレハ江都ノ御事ハ六廟七廟ノ内イツ
レニテモ其當ヲ得玉フト謂ツヘシサテ太祖ノ廟ハ

申シ奉ルニモ及ハス 台徳大君ハ守成ノ良君ニテ
創業ノ内ニモアツカラセ玉ヘハ是モトヨリ不遷ノ
宗タルヘシ其餘親盡サセ玉フハ祖廟ニ祧シ奉リ一
祖一宗ヲ四親ニ合セ六廟タルヘシ 有徳大君ハ今
ノホ四親ノ御内ナレト申興ノ明君ノ御事コトニ御
血脈モ是ヨリ文ラセ玉ヘハ後日ニ中宗ノ類トタテ
奉ルヘキ御事ナレハ今存スル所ノ七廟ノ内ニ廟ハ
空クテ後世ヲ待セ玉フヘキカ廟ヲ豫シメ設ケ才
クト云ハ毛詩ノ疏ニ見エタリソレハ必来ヘキノ言
ニハアラ子氏是ハ今既ニ七廟アルニ就テ説ヲ立ル
也後世ニ必ス用ユル所アル廟ヲ毀テ去ヘキニモ

ヲ又カイツレニモ空廟イカトナラハ假ニ一孝恭
世子ノ御廟トシ幾千秋ノ後七廟ニ満タルトキモア
ラハ世子ハ先廟中ニ附祀アラセラルヘキカ又萬代
無疆ハ御トユエコノ後七賢明ノ君ノ宗トスヘキハ
十主モ廿主モアラセラルヘクトモサヤウニ廟制ヲ
増フ先王ノ法ニ非サレハモシ巴後功德盛シコメ祧
シ奉ルマシキアアリナハ今日同殿ノ制ニ任セテ古
キヨリ段ニト二宗ノ廟ニ合享アラセラレ何スシ今
マテ有來リタル七廟ヲ萬世不易ノ制ト立サセ玉フ
ヘキヲ聖人ノ中制ニ叶ハセラルヘキ御上洛ノ事カ
御上洛ノ事

御上洛ハ第一ノ盛事ニテ元來御一代ニ一度ハ御
アルヘキ御事ナリ華域ノ古代ニテハ陶虞ノ際ニ五
載一タヒ巡守ノ一見エタリ三代ノ間モ其事アリタ
ルハ禮記等ノ諸書ニモ存セリ秦漢以降後世ニテモ
行ハレソレニ美惡ハサマミミアリ是ハ其人ニカミ
ルヲ巡守ハ風ヲ觀俗ヲ察スルノ要務ニテ人君ノ必
ズ行ハセラルヘキナリ近クハ清國乾隆ノ巡守ノ
ヲ大平ノ餘化萬民歡欣メ上下ノ嘉慶洋ニタルアリ
サマカツテ其記録繪圖ナト見及ヒタリシ寔ニ盛事
ト云ヘシマシテ御上洛ハ王室ヲ格別御尊敬遊ハサ
ルニトノ美意ヨリ出テソノ序ニ東道畿内ヲ御覽遊

ハサレ、御事ナレハ天下ニハ遍子カラサレ氏巡守ノ遺意トモ云ヘシ巡守ハ天子ノ事ナレハカノ御序ノ天下ニ遍子カラサルハ又却テ御謙光ノ美事トスヘキモノナリサテ御初代ニハモトヨリ夕ヒミミノ京師御往來ニテ位號ヲ正サセ玉ヒシ御時夕ニモ諸事御手輕クアラセ玉ヒシハ草昧ノ宜ヲ得サセ玉フナリ御二代モ世子タラセ玉ヒシ比ヨリ每度ノ御上洛隨分輕キ御事ソノ御繼代ノ時ノ輿馬騶從ハ甚盛ナル御事ナリシモ御治世ノ始メナレハ是又サルヘキ御事ナリシ御三代ニ至リテハ恒升隆治ノ化ニテ前後ニ比類ナキ豊富ノ運ニ乗シサセ玉ヘハ寛永御

上洛人盛ナルヲ寔ニ此上モ無ルヘシ以テ後此事絶果タルハ繼セラレタキノ勢モアリシヤ又ハソノ後追々帑藏耗竭ノ患モ生シテ所詮コレヲ御沙汰ニ及ビセ玉ハサリシニ又享保申興ノ御大業ニ節儉ノ政ヲ以テ前烈ヲ振ハセ玉ヒ其比御上洛ノ事ヲ甚御願望ニテ諸事減省ヲ以テ行タハセラルヘク思召タレ氏全體ノ經費洪大ノ御事方レハニハカニ以テ慮置モカタキ丁ニ思召レ且又列侯ノ窮モ已前トハ事替リタレハ天下ノ難義ヲ憫惻セサセ玉フヨリ御終身御志ヲ齋ラセ玉ヌト反カニ衰リ及ビ外ハ殘片多キ御事ナリ今日國家ノ勢享保初年ニ類シテハ内裏

炎土ノ御大變サヘ加ハリ天下ノ諸侯モ從來ノ華後
ニテ太平ハ國之マスムニ甚シク專ラ節儉ノ政ヲ施
サセ玉フ御時節ナレハ中ニ容易ニカノ盛事ヲ舉玉
フヘキニアラフ凡今ヨリ二十箇年モ仁義普クユキ
渡ラセラレナハ諸侯ノ風儀モトクニ一變ニ漸ク以
テ舉行スヘキ入日モ至ルヘシ故ニ今ヨリ内ニハ
徐々ト以テ遠圖モアテレタキモ人ノ時至リ左
ハ寛永ノ盛儀ハ姑ク差置キ始祖ノ每度ノ御上洛ヲ
模範トシ享保ノ御深意ヲ體シ萬事大ニ省約セサセ
ラレ君子ハ繼久ヘキヲ爲ルヲ意ヲ主トシテ此時ニ
限ラズソノ已後ノ御代ニマテ事ムツカシカラス能

行ハルヘキヤウノ良規ヲ立オカセラレタキモノナ
ルヘシ秦漢已來ニ封禪ヲ一代ノ盛事トシテ太平ノ
世ニ必ス舉ヘキノ事トスルハ妄説ノ云ニ足サルモ
ノ也ソレトハ品カハリ明君賢主ノ必ス修舉シ玉フ
ヘキノ美事ナレハ今ノ御時節ニ決メナカルヘカフ
サルト也サレ凡遙ニ歲月ノ外二期セサルコトヲ工
サル義ナレハ夕トヒ期ノ如ク行ハルニトモ愚老ノ
觀ルニ及ハサル後ノコトナルヘシ去ナカラ今コノ事
ヲ陳説シオクハアニ司馬長卿ノ封禪遺草ノ醜ヲ學
フトセンヤ是愚ノ自カラ信スル所也

諸侯室家之事

天卜ノ諸侯ノ室家ヲ都下ニ聚メ置ルニハ豊臣家ヨ
 リ始マレリソノ時禍亂新ラタニ定リ四方ノ情偽イ
 マ夕明カナラサレハ諸侯ノ追ニ邸ヲ大坂ニ設ケル
 ニ付テスクニ其室家ヲ徙サセテ是ヲ質スルナリ西
 討東伐纒力ニ畢リ聞モナク外征ノ大役モ起リ海内
 治ミタレハ一時ノ權宜ニ於テカク計ラレシハ餘義
 ナキノ勢ニテモアリシヤ御當代ニ及ヒ慶長五年關
 箇原武成ノ後諸侯追ニ邸ヲ江都ニ設ケラレシニ室
 家ノ御沙汰カツテナカリシハ寛仁大度ノ御事ニテ
 謙讓不違ノ美意トモ申シ奉ルヘシ同十年ニ至リ藤
 堂氏ソノ議ヲイサナヒ相良氏ソノ事ヲ始メラレシ

ヨリ諸侯爭テ事ニコミニ從カハレシナリ是關箇原
 御陣前ニ石田ノ姦謀ニテ大坂ニ質スル所ノ諸侯ノ
 室家騷擾シテ往々ソノ國ニヘ逃レ下ラレシ後ノ
 下ニテ天下ノ人心判渙シ端ヲ更々メソ人歸嚮ヲ新
 久ニセル時節大レハカクモ乃ルニキモ人カラニ以
 ニシテ大坂御陣後凶器長ク縮マサレ居ルヤシ
 マテ十年ハカリ有姿ニテ終ニ永制ト方クタルヲ火
 元來人質ト云ハ無益ノモノ大リ必竟ハ亂世戰國州
 際ニ俄ニ和睦シ或ハ降服シ又ハ籠城明渡シテ大ト
 時誠偽ヲ明カニセン文人當分ノ質ヲ出スコトニ是
 止下ヲ得サルノ勢ナリ長留置ヘキモノニ非ス仁カ

二ト大レハ人ハ大義ニ臨ミテハ質ヲ顧ルモ人ニ非
 ス既ニ關節原前小山ニテ列侯會議人時誰一人大坂
 人質ニ引レテ上方ニ從ヒタル人ハ大キニテモ概
 知スヘシ又ハ大利ニカミリテハ人質ヲフリ捨テ離
 畔スル下亂世人常也義ニモアレ利ニモアレ畔キ夕
 ルカ憎シトテソノ質ヲ絞セハ罪モ大キ婦女童子ヲ
 殘暴スル人シテ大ラス以人長久離絶ニ及ヒ譬際深
 タタルヘシ殺サス大坂シホケハ質ヲ取タル詮モナ
 ク外人質ヲ出セル者ニ安心ニテ離畔セヨト勸ムル
 勢アリ方外シ以テ初ヨリ質ナキニ劣ルヘシサリ
 ナカテ歸服セシ人ヨリハ我赤心ヲ表メ質ヲ送ルヘ

キ苦ナレハ一粟ニ質ヲ受マシトモイハレズ甘ハシ
 テ出スヲ受テ迫リテハ取マシキモノナリサテ又太
 平人世ニハ諸家以室家少ミテ領地ニアルヘキ苦ノ
 可ナルニ客土ノ一郎中ニ身ヲ終テツヒニ其君子對
 内ノ面影タニモ見ストアルハ遺憾ノ可ナルヘシソ
 ノ上隔年ノ留守ヲマモラセラルニヨリ正配偶三才
 至ニテ慶力ニ常人ノ十五年ニ准ス家臣ハ江戸計
 辨スルモ往々是ニ類ス國事監事ナケレハ事ニ當リ
 テハ借令五年七年ヲ累ヌルモ當然ノ可ナレトタ
 是ゾモテ生涯ノ事トシ老親ヲ背キ妻子ヲ捨置ルハ
 情ニ於テ傷ムヘキ人甚シキモ大有力士大夫尚然リ

況や公侯ノ貴重ニ於テヲ又列侯ノ菟裘ノ地ハ
侯ニテモ必スソノ封ニ就テ子孫羣臣ソ奉養ヲ受テ
餘年ヲ娛マルヘキコト也東邸ニハ側室ヲオキソノ出
生ヲ任子ニ充ヘシソレモ無内ノ國ヨリ子弟ノ内一
人ヲ邸ニ置ヘシ女子ニテモ苦シカラスソレモナク
ハ世臣ノ子弟ヲ當分出シ置モヨシ亂世サヘコノ例
アルコト也又任子ヲ不クタヒ置カユルトモ勝手次第
ナルヘシ上ヨリハ曾テ責ラレヌ下ヨリ甘心ニテ差
置クヲ姿ナレハ何ニテモスムヘシタミ嫁娶ハ在國
ニテ方角ノ違タルハ道里ヲ隔テミ事大造ナルヘキ
カソノ分ハ今マテノ如ク東邸ニテ取結ヒソノ後國

二走スヤウニアリタラハ障ルコトモナカルヘシ出シ
コノ路ハ下ノ諸侯ノ條ト相炤シ見テソノ下全カル
ヘキノミ

參勤交代ノ事

一草味創業ノ御時節ハ大小諸侯江都詣切リヲ勤功
トシ折ミ封ニ就キ休息ノコトヲ官訴アリシマテノ
コトニ慶長中ニハ定リタル制モ聞工ス元和偃武以
後ニ漸次ヲ以テ隔年參勤ノ様ニナリ西裔侯國ニテ
モ道途ノ遠ヲ厭ハス心隔年ニ出府ヲム子トシ怠ラ
サルコトニシ遂ニ永制トナリタル事ナリ去ナカラ
先王ノ制道里ノ長短ヲ以テ來朝ノ疏數ヲナシ一歲

參勤交代ノ事
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

二十夕七朝スルヨリ五歳一度朝スルニ終ル遠近ニ
 從ヒ勞逸ヲ均シフスルハサモアルヘキ筈ナリ我邦
 ニテ江都ヘハ薩摩ヲ最遠シトス海陸四百里ニ及ヘ
 リ其人上下トモ馴來リタルコトニテ今更如何トモス
 ヘカテサルモノユエ止ムコトヲ得スシテソレニ安シ
 シテアレトモ思ヘハ遙カナルモノニテ四五十里ノ
 道里ノ諸侯ト同シク年々ノ往來ハアマリ勞逸ノ均
 シカラヌコトナリソノ上ニ大諸侯大勢ノ供廻リニ
 テ歸國ハイツモ夏ノ旅行ナレハ別テ病人多ク年々
 道中ニテ墮死ノ人定リテ數人アリ又病工工大阪邸
 中ニ留リ保養ヲ加ヘ終ニ客土ノ遊魂トナルモ定リ

リテ數人ナリト聞クサテ又家中ノ人ノ供ノ外一ハ
 大ニ別ニ往來スルコト引モ切ラス年中虚日ハナ
 キホトナリソノ外西裔ノ諸侯マテ往々ミナ然リソ
 レテ合セテ八年ニ死亡ノ人イクハクソヤコレミナ
 郷土ニ在テハカミルコトモアルマシキニ全ク長途ノ
 寒暑霧露ヲ衝冒スルヨリ出テ其人ハ云ニモ及ハス
 ソノ父母妻子マテノ痛餘イカハカリノコトナラン實
 ニ憫ムヘキコトナリ上タル人豈軫念ナカルヘケニヤ
 交代ノコトハ今日ニテハ猝カニ變シカタキコトナル
 ヘケレト何トソ制ヲ設ケテ先王ノ法ニ從ヒ遠近ノ
 逸ヲ均シクシタキモノナリ熊澤氏ノ書ニ在鎌倉ノ



ヲ挈テ歸國スルハ過半ナルヘシ房總ヲ始メ他國ヨ
リ入込タル臣妾モ空手トナリ皆ミ國ニ歸ルヘシサ
アレハ江都ノ人數大ニ減シ土著ノ工商モ業ヲ立カ
タク上方ニモ響キテ一統ノ艱義トナリコハイカン
ト人心動揺スヘシ第一御膝元カクノ如ク手薄ナリ
テハ是マテノ繁昌ヲ失ヒ莫大ノ變トモ申スヘケレ
トモ是ニハ品アルトナリ覽人請フカツ寛假シテ愚
ニソノ説ヲ終ラシメヨ總テ江都ノ御事ハ御創業以
來善政ヲ以テ勞來ニカラ盡サセ玉ヒ丘陵ヲ平ケ島
鹵ヲ埤メ諸港ヲ開キ海運ヲ通シ士大夫ヲ區處シ兵
卒ヲ撫育シ侯將ヲ列置シ上國ノ豪戸ヲ徙シ國中ニ

充テ何一ツ殘ル所ナキ御事中庸ノ天下ヲ治ル九經
ノ要ニモ往々叶ハセラレタリソノ後大平日久シケ
レハマスミミ萬國輻湊シテイヤカ上ニ入コミ名々
ミル武藏野ニ寸地ヲ留ス雞鳴狗吠相聞エテ四境ニ
達シイハユル邱茅雲ノ如起リ樓閣星ノ如ク羅ナリ
閭閻横地舸艘迷津ニテ最初儉素ノ風モ漸々シテ後
靡ニ移リ民間ニテ質實清廉ノ夫ハ却テ衣食ニ窮シ
浮夸汚濁ノ輩ハ却テ太利ヲ得ヤウニナリユキ或ハ
敗紙ノ利ヲ專ラニシテ騎ヲ連ヌヘク又ハ鉢ウエノ
煖鏡ヲ賣テ鐘ヲ擊キ侯家飼鳥ノ飼ニナル蜘蛛ヲ商
テ鼎食セルナトソノ外妓院戲場賭博任俠ナトノ游

手空民姦宄ノ族街衢ニ盈溢スルヤウニテ都下ノ繁
昌古今ニ絶シタルヲナレトモヨク考フレハコノ繁
昌ハヨホト過昌ナル方ニテイマダ全ク實昌トハス
ヘカラスイカントナレハマツ第一ニ萬國輻湊ノ人
數ヲ以テカク富盛ヲ見スルナレトモコレ皆江都籍
外ノ戸口ナリモシ籍中ノ戸口ヲ以テ是ヲ計レハ人
數大ナル相違ナルヘシソノ上諸方ノ入込ノ人ハ民
事ヲモ務メス政事ニモ預カラス無用ノ人甚多ク飲
食流ルカ如クナレハ諸色モ高直ナリ平日トテモ公
私トモニ病テモシ上方運漕遲滯スレハ民生日用ノ
品拂底ニシテ衆人藁儀ヲスルヤウナルコト毎ニア

リトキク必竟ハ萬室ノ國一人陶スルノ類ナリコ
アニ愚ノイハユル過昌ナルモノニ非スヤ近來御新
政ニテ風習大ニ變化シ右ニ云如キ姦民ハ次第ニ屏
息シ良民段々時ヲ得ルヤウニナリテ愚ノ往年東下
シ目撃シタルトハ觀ヲ改ムル如クナルヘク有カタ
キ御事也ナレトモ萬國入籠ノ過昌ハ全體ノ勢カレ
ハ今日狎カニ如何トモシカタキモノ存スヘシ凶テ
ツラニ思フニ今日承平凶器長ク縮マリ寔ニ日出
度御代ナレトモ外夷入寇ノ變ハ何時ヲ測リカタシ
我ヨリ致サニル不慮ノ變ノ事ハ申タリトモ國家忌
諱ニ觸ルニトモアラスカシ今ニモアレ古昔ノ蒙古

人寇ノ禍ナト起リソノ虛ニ乘シ東北夷マテ入寇セ
ハ在府ノ諸侯ハ追々國ニ就テ捍禦應援ノ備ナクハ
アルヘカラスソノ時殘リ留ル侯氏ハ僅カニ都下
總人數大ニ減シ工商輩モ俄ニ業ヲ失ヒ事鎮マルマ
テハ十分ニクテ急ニ衰微ノヤウニ見ユヘク所謂
勳昌ノ實コトニ的然タルヘシ是等ハ先決シテ無
上レトモ君子無事ノ日ニ當リ戎狄不測ノ變マテモ
思慮セサルヘカラス夫ニ付テモ平日都下殿盛ノ基
ヲ增テ不測ノ變ニ臨ンテモ都下萬金ウコキナキハ
勢ヲ得ヘキハ右ニ云如ク會同于拘ノ制ニアルヘキ
ノミ此事俄ニ施シ難クレハ徐ニ歲月ヲ積テ行フヘ

シマツ初令ニ遠キヲ先ンシ他人諸侯ハサシオキ三
百里以上ノ分ヲ三年ニ一度ノ參勤ニテ一年在府二
年在國トシ二三年ノ内ニ一時ニナラサルヤウニ追
々人替ルヤウニシソノ三年ノ後三百里以内ノ分ヲ
又三年ニ參覲ト右ノワリ合ヒニシソノ人時初ノ三年
一覲ヲ四年ニ一覲三百日ノ在府トシ又三四年ノ後
二百里以内ヲ三年ニ勤二百日ノ在府前ニ云トコ
ノ平均ノ本制ハ通リニシ初ノ三年ハ四年ニ四年ハ
五年ニ皆本制ニ從ヒ又三四年ノ内ニ百里五十里以
内皆本制ニ從ヒ太氏十年巳上十四五年マテノ内ニ
ハ殘ラズ平均ノ本制ニナリ歲月ヲ經ルユ工目ニ立

スシテ事調フヘシサテ諸侯並ニ隱居ナトニ江戸好
 キト稱スルアリテコノ制ヲ好マヌモ多カルヘシ是
 ハ惡習ヨリ出タルナレトモソノ分ハ是迄ノ姿ニ
 アリタキト願ハルミハソノ意ニ任セ又外ニモ故ア
 リテ先令マテノ通りト願ヒ立アル亦又ソノ通ニテ
 曾テ官曰リ是ヲ強ス在府モ定リヨリ長ク在タキト
 人方是又ソノマミナルヘシ全體諸侯人爲ニ宜シキ
 事ユ立次第ニ合點ユキテ後ニハ心ヨリ甘御スルヘ
 シトカク強スシテ自然ト行ハルミヲ待テ妙トス
 テ右ノ通ニテハ都下ノ侯邸ニハ上屋敷下屋敷ニ所
 ニテスミ小諸侯ハ七部ハカリニテモスムヘシ萬三

類焼ナトノ變アラハ暫ク時社民家ニ寓居シ程ハク
 封ニツキテ心靜ニ上邸ヲ營ミテスムヘシサレハ
 ソケアリテ廢シカタキ副邸ノ分ハ格別ソノ外ハ多
 分賣拂ニナルヘシ又官ヨリモ令シテ拂ハセフルヘ
 シ是ヲ公侯貴人大社巨刹ナトハ買取ルコトヲ堅ク
 禁セラレ町人ヲ募リテ買得サセ門牆ヲ撤テ借屋ト
 ニ諸國ヨリ入籠居テ奉公ニ離レタル類ノ者思ヒミ
 ハニ宿ヲモ持ヘキヲ住シメソレミミ渡世ヲ營マス
 ヘシ又他國ヨリソレヲ目當ニ入來ル者モ多カルヘ
 シ十數年後ニハ都下ノ戸口夥シク増ヘシ故ニ布帛
 綿絲酒糟茶油凡百器用ニ至リ上方ノ運漕ノミ特ム



物ヲ都下ニテ隨分追々製造賣買サスヘシ侯邸少ナクナリ民戸多クナレハ大利ヲ射ル群民ハ次第ニ減シ細利ヲ營ム良民ハ段々多クナルヘシ諸色高直ナルコトモナク君民上下一體ノ利益ト也侯家ノ雜人大ニ減スレハ姦宄盜賊モ自然ト少ナクナリ火災モ自然ト間遠ニナルヘシ論語ニ庶富ヲ稱シ歴史ニ戶口殷實トアルハコノコトニ愚ノサキニ實昌ト云モノ是ナリカクアレハ他年萬一戎狄ノ變有テモ都下ハ夷然トメ動搖ノコト無又ハ東陞ニ事有テ兩諸侯部下ニ馳聚セラルトモ萬品ノ支給ニ事缺コトナカルヘシ但シ江都ニテ諸色製造モ多クナリテハ

地所ヨリ運漕境ハスシテ上方ノ衰微ニナルヘキナト云人モアラソレハ土著ノ戸口多クナル上ナレハ中々ソノ所ノ製造ノミニテハ引足ルコトニアラサレハ何モ上方ノ運漕ニツカユルコトハナカルヘシ戸口人多クナルニ付テハ運漕ハマスハ競フ方ニヨソアルヘケレ又江都ヨリ東諸國ヘ轉送スル所モ手弘クナリ何方モ繁昌ヲ失フマシ又道中ハ諸侯ノ往來間遠ニナレハ驛亭ノ人馬モ肩ヲ息ヘテ所々ノ費用モ少ナク地頭々々ヨリ人ヨナヒモ減シ各益アルヘシ逆旅人夫ナトノ諸侯ノ往來ヲ待テ烟ヲ舉ル者ハカリハケニモ寂寥ナルヘケレトモソノ分ハヨ

地所ヨリ運漕境ハスシテ上方ノ衰微ニナルヘキナト云人モアラソレハ土著ノ戸口多クナル上ナレハ中々ソノ所ノ製造ノミニテハ引足ルコトニアラサレハ何モ上方ノ運漕ニツカユルコトハナカルヘシ戸口人多クナルニ付テハ運漕ハマスハ競フ方ニヨソアルヘケレ又江都ヨリ東諸國ヘ轉送スル所モ手弘クナリ何方モ繁昌ヲ失フマシ又道中ハ諸侯ノ往來間遠ニナレハ驛亭ノ人馬モ肩ヲ息ヘテ所々ノ費用モ少ナク地頭々々ヨリ人ヨナヒモ減シ各益アルヘシ逆旅人夫ナトノ諸侯ノ往來ヲ待テ烟ヲ舉ル者ハカリハケニモ寂寥ナルヘケレトモソノ分ハヨ

夕喻云本業ニ立返リ農務ヲ專ラトセシムヘシ東西
千甲治道人人辰ニ就モノ多クナリタラハ是大ナル
國益ナルヘシ何分右ノ下ハ大事ノ業ナルハカク云
エツキテハ尚又ソノ下ハイカミコノヨハイカミト
人ノ難スベキ事トモアルヘケレトモ以テ非ヲ設テ
一ニ辨セシモアザリ煩碎ナレハ一ツ是ニ正マルノ
ミカクアリナク全體ニテ都察ノ見分ハ今ヨリカク
ヒシクカク方ナルニ基本人堅固ナルハ今ニ
モ尚マザルヘキモアランカカク九經ニ子庶民來
百工柔遠人懷諸侯ノ意ハコノ内ニ存スヘシト
一侯師士正門ヲ鎖シ置ルハ甚本カシシキコト

ナルヘシ歸去來ノ辭ニ門雖設而常關トイヒ又ハ柴
門畫掩ナトノ類詩ニモ多ク作ルミナ隱遁ノ境界コ
トニテ諸侯ノ顯貴ニ於テハ不都合ノコト此上モナ
シソノ上我邦ニテハ罪ヲ得テ閉門ノコトアレハ一
通リニテハ忌ヘキホトノコトナリ是ハソノ初メ亂世
ニ起リタルコトナルヘシ爭亂ノ世ハ何時ニ寇ノ至ル
モ測ラレ子ハ正門ヲ常ニ關シ潛戸ヲ設ケテ諸用ヲ
達シ城主ノ出入又ハ大賓ナトアルトキノ正門ヲ
啓シナルヘシソレヨリ常トナリテ治世ノ後モ改ラ
マコナム鑑習ト云ヘシ御番城ニ門ヲ鎖サルハ空
城ナレハソノ筈ノコトナリソレユエ諸侯モ參觀ノ

日ハソノ國ノ城門ヲ鎖シ歸國ノ日ハ藩邸ノ正門ヲ鎖サシテソノ餘ハ開ルヘキコトナリ在府ト否トハ人望テ知ヤウニナリ是モ便ナルヘシ但シ今ハ門ノ啓閉ヲ以テ直參倍臣ノ出入ヲ分ツトニナリ來夕リ是ハ門ニテ分ストモ苦シカルマシキトナレトモ仕來ニナリ今サテ混スルモイカミトナラハ華城古昔ノ門闌ノ制ヲ用ヒ門限ノ中央ニ闌ヲ建テ直參ハ闌ト潜戸トノ間ヲ出入アルヘシ是ハ門ノ中央ナリ倍臣ハ闌ノ一方ヨリ出人スヘシコレニテ分明ニワカルヘシ度ニ啓閉ノ勞ヲヤムルモ一ツノ簡便ナルヘシ潜戸ハ夜分ノ出入ニ限ルヘク自晝ニ出入人ヘキ

モノニハ非スカシ

國等之事

一國者ハ一時ノ權ニ出テ不易ノ良法ニ非ス事宜人情ニ於テ皆甚夕安カラサルコトアリ愚カツテ鄙撰ノ逸史ノ草稿中ニ是ヲ論シ見タル一條アリ左ニ録ス天正十八年關白徙大君封于北條氏地相豆武房ニ總二毛八國逸史氏曰徙封之制非古也蓋其君臣墳墓之地一朝徙之大傷孝子慈孫之心且以失其民歷世愛戴之情化淳爲漓庸可訓哉是以先王慶讓之典增地削地皆就其封未嘗移而易也夫參國我墳墓而關白弗察焉大君宜有所詰而怒然遠徙不復回顧者豈有他耶

蓋以豐公不學亡術悖於理義又其喜怒難測不可撓拂也。大君其如之何。抑是制在爭亂之時似有不得已者。然豈在日啓所酌功勞不能不腆而其人多非世襲舊疆。割盡新壤有餘故有所移易而黜陟亦行乎其中矣。雖然。賢而移諸善地猶可也不賢而移諸醜地之民何辜。自非權度精審樂循理者不能處其宜也。若豐公麤率之資固不足責焉。我大君異日致大平猶且因循未改。亦唯權時之制勢不能不然耳。特至於後世承平當有為之時依然相受以為永制則不能無憾矣。或曰是制也蓋病於侯國之富厚累世民心固結將來致尾大不掉若唐李藩鎮所以默銷其禍乎。未前惡得容啄易所謂童牛之

楛元吉是也。曰滋非也。國不富厚奚以為教民不固結焉。足言治夫封建之設各世其土宇以環衛王室乃得衆得財固其職也。所患獨在長天下者驕秦凶害以失諸侯之心已矣。舍我醜忌彼美殆不可救藥。且如其所病宜莫若與薩諸臣藩國家於是概無所問移易多在郡邑侯氏非童牛是童狗何為假楛而後吉。至近世有德大君開中興之業英明所燭有見於此乃停廢是制焉者二十餘年。識者以為威德今而復其舊惜矣。夫右二陳スル如ク徒封ヲ以テ暗ニ黜陟ヲ寓セラルニハ國家ノ大體ニ於テ磊々落落ニ夕ラサルモノアリテ夕々々墳墓ヲ入テ民情ヲ失フヲ感ミ人々ニ非サルカ何卒先王ノ制ノ如



クソノ地ニ就テ慶讓ノ典行ハレハ諸侯ノ功罪明白
 ニシテ賞罰正シク勸懲ノ意モ深カルヘシ是モ俄カ
 ニ行ハレテハ今マテナキコトユ工自ラ身ヲ責スシ
 テソノ罪ニ鞅ニ餘言アル侯氏モアルヘケレハ豫メ
 令ヲ下シ以來徒封ノ制ヲ停メ功罪カクノ如クシテ
 慶讓アリト云フヲ普子ク教諭アリタル上ニテ時ヲ
 待テ行ハレナハ子細ナカルヘキカ
 一近世ノ侯氏奢侈ニ因テ譴責ヲ得退老セラレ跡ハ
 何事ナク又虐政ニテ領内騷動ニ及ヘトモ幸ニ事早
 ク靜マリテ何事ナキモアリ是等ハミナ削地ノ科ニ
 アルヘシ總テ侯封ノ分ノ高ト物成トハ過不及ノ

相違色ニアルコト常ナレハ削地ノ上モ高ハモトノ也
 クナルヘシ故ニ萬石内ノ分内ニ入テモ格ハ替ルコ
 ナカルヘシ當人又ハ子孫ニテモ徳ヲ修メ政ヲ善セ
 ラルニトキ地ハ還附シテ舊ニ復スヘシ是モ即勸懲
 ノ大益ナリタミ還附ノナキ内ニ再タヒ削ラレタル
 ハ高モ格モソノ時減スヘキノミ是ハ代ヲ隔テモ
 再犯結終罪ニ歸スレハナリ又ソノ賢行善政アルハ
 慶典ニテ地ヲ増ハ勿論ノコト也但シ名藩大邦ハモ
 ハヤ多ハ増ヘカラス又少シク増テ賞ニモ立カタク
 ルヘケレハ其分ハ或ハ官ヲ進メ或ハ爵ヲ陞シ又ハ
 寶器武器等ノ錫ヲトニテ賞セラルヘキカ尤ゴノ昇

進ハ殊賞ナレハ一代切りニテ子孫ノ先途トハ爲ヘ
カラスヨノ制多行ハレハ諸侯ノ風儀ヲ正スコト尤
速ナルヘシ或人曰國替ノ制停廢アリナハ侯家人民
トモ大ナル安喜ナルヘケレトモソノカハリニ古典
ノ慶讓行ハレテハ賞罰アマリマノアタリナルトコ
ア侯家ニテ領内ニ事アラシマテ恐レテ諸役人ミナ百
姓ニ手ヲアツルヤウニナリ百姓ハコレニ乗シ意地
強クナリ聊ナコトモ矜然ト云立ルヤウニナリ手
アマルノ患ハナキヤ愚答テ曰然ラスサヤウニ百姓
ヲ敵ニモツヤウナル心ニテ治ヲ施スハ申韓ノ法術
ニテ王道ニ非ス百姓ハモト質實ニテ三代ノ直道ニ

テ行フ所ノ者ナリ上ニ義ヲ好ムニ民ア二服セサル
モノアランヤ上ニ信ヲ好ムニ民ア二情ヲ用ヒサル
モノアラシヤ凡ソ君上タル人ノ信ヲ體シ順ヲ達ス
ルノ徳アランニソノ人下ア二利ヲ圖リ私ヲ營ナムノ
ミノ民アラシヤ百官有司ミナニ是ヲ以テ自反ス
ヘキモノナリ是先王ノ要道ナリ

受領之事

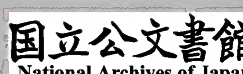
守ハ官ナリ古代ノ國司ノ任ナリ喪亂ノ久シカリシ
ヨリ國司モ往々子孫繼承シ又ハ羣雄割據セル勢ニ
テ治世ニ趣キタルユ正朝廷ノ典故ハヤハリ郡縣ノ
制ニテ天下ハ封建ノ世トナリタリソレユ正名稱混

雜シ古ノ官名ヲ以テ今ノ封侯ノ稱號トスルヤウニ
ナリ又ソノ封號ノ内ニ虚封アリ實封アリ又實封虚
封ヲ用ヒラルクアリテ益混シタルモノナリ是ハ今
サラ瘖正スヘカラサルトニナリタレト責テ實封ニ
虚號ヲ用ユルノミハ改タキモノナリ備前肥後長門
ナト是ナリミナソノ祖先ニワケアリテソノ國號ヲ
用ヒラレサリシトナレト今日ニテハソノ例ニモ及
ハス實ニ就テ稱セラレタキモノカ大膳大夫ハ別メ
ワケアルトナレト是ハ兼官タルヘキノミ是等モ名
ヲ正スノ一端ニ入ヘシ今ノ諸侯ニ受領官名ヲ一分
ノ名稱ト心得サセラルク多シモシ受領ノサシ構ヒ

アリテ外ノ受領官名改ラルクハ轉任ナルヲ改名ト
稱セラルクト甚僻事ナリサキニ一侯ノ京師播紳家
ヘノ交通ニ某氏何ノ守ト署セラルク肩書ニ何守改
名トコトワリアリシト堂上ニテ殊ノ外非笑アリシ
ト聞クコレニテミレハ轉任ノ位記ハ請セラレサル
トトミエタリ轉任ハ今ノ役替ナリ官人ノ役替スル
上ノ命ヲマタス勝手ニ自分ノ望ミノ役トナルト云
トアルヘキ様ナシ必ス執奏ヲ經ヘキト也是ハ官ハ
カリニテ爵ニカハラ子ハ始テ敘爵任官ハ時ノ朝廷
官人ヘノ入事物ヲ半減カト云如クシテ事ヲソクハ
可ナルヘシ私ニ轉スヘカラサルトナルヘシ

列侯ノ羣公子ハ出テ同姓諸侯ノ後タルハ格別人ノ
 異姓ノ後ヲ兼ルハ禁セラレテ皆領内ヲ分テテ封
 トスヘシ是ハ今マテモ有來リタル例ナレバ必
 主父偃力推恩ノ故智ヲ襲フニハ非レバ今ニハ大國
 ノ權ヲ分ツ爲ニモナリ第一ニハ宗國繼嗣ニシテ
 時ノタメ切要ナルヘシ古代周室ノ制ニハ次男以下
 ミナソノ國ニ仕ヘテ太夫タリシヲナレバ只今ニテ
 ハ俄ニソノ例ニモ依カタキ勢アルヘキナレバ甚
 弟ノ多キハ家老以下ノ養子トセラルミモ往
 ハソノ分ハ輕キ祿ニテ初ヨリ別ニ士大夫トセテ

テ可ナルヘシ又中族以下ハ支封多ク大國ニハ本家
 ノ高ノ減スルヲ患ウルヘケレハソレハ前ニ陳スル
 王室皇子ノ例ニ依テ公子公孫ニテハ相應ノ分封ト
 シ公孫ノ子ヨリハ祿ヲ減メ臣籍ニ入シムヘシ小侯
 ニテ支封ヲ難スル分ハ次子一人ヲ小祿ニテ繼嗣ノ
 備ヘトシソノ餘同姓ノ内ニ養子ノ用ニテ久ハ公儀
 へ直奉公ヲ願ハレ官ヨリ少クノ祿ヲ以テソノ才器
 相應ニ召使ハレモシ本家又ハ親族ノ内ニ養子ノ
 アラントキ返シ賜ハルヘシサテ分封ノ下カクアリ
 テハ後ニハコトノ外多人數トナルヘクトモ見ユレ
 氏是ハサキニ皇子ノ御事ニテ論スル如ク思ハ外ニ

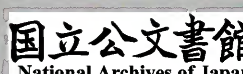


燕雀晏然トメ竈突ノ炎ノ棟梁ニ及フヲ知サルコト嘆
スルニ餘リアルコトナラシト士大夫ハ驚愕シテ其
一近來國家ニ節儉ノ善政行ハレ風諭周遍ナルニ由
リ侯氏モ已レテ願ミ身ヲ責テ政事ノ改リ異日治化
ノ頼モシキモ聞ユレモ又舊習ニ回翔シ風化ノ美ヲ
モ道聽途説シテヤマサルモ多或ハ感悟ノ機アリ
凡窮困既ニ甚シク今サテ奈何トモ又ハカラスト
テ猛省ノ大キモアリト聞ク必竟ハ官ヨリ一ツノ新
制ヲ立テ誘掖激厲ヲ多クハ補キカクナルヘシト人
方竊ニ考スルニマシテ政府ヨリ諸家ヲ有司ヲ私第ニ
召シ是マテ滯借ノ有無ヲ詳カニ訪問アリテ有無多

少トモ相違ナク書付ヲ以總高ノ所ヲ真直ニ申出ル
ヤウニ命セラレ尤三十年已前ノ分ハ事古タレハ或
ハ年賦トノ名ハカリニ方リ或ハ借捨ニテ扶持方ト
ナリ又何トナクスタリテ金主モナキモノト心得又
ハ金主衰微シテ迹モナクナリタルモアルヘシ何分
事勢一變ニ及ヒタルモノ多カルヘケレハコレハ其
儘ニノケオキ又ハ當時ノ新借年々元利手當モアリ
テ滯ナキ分ハ是ヲ除キタニ三十年コノカタ段々ノ
サシツカヘニテ金主向テ押付オキ或ハ聊カノ利分
ヲカタマテニツカハシ元金ノ沙汰ニ及ハス又ハ年
賦ノ相對ノミニニテ約束通りニナラサル分皆滯借ナ

レハソノ分ヲカキ出スヘキモノナリサテ窮困ノ諸
 侯ハ公役モ勤マリカタク我臣民之撫育モ出來サル
 一一朝一夕ニ非サル大弊ユエ其弊ヲ上ヨリ救ヒ改
 メ天下ノ民カヲ愛養アルヘキ仁慈ノ思召ヲ以テ滯
 借ノ多少ニ從ヒ公役ヲモ年限猶豫ニ及ハセラルヘ
 キ御事ニアランカ因テ其德意ヲトクト教諭アリテ
 諸家ヨリ嚴譴アランカト恐レテ大借ヲ僞テ小借ト
 シ又ハ公役ヲ免レニカトテ小借ヲ飾リテ大借ト申
 立ルト決メアルマシク又外ニ御吟味ノ筋モアレハ
 少モ實ヲ失ヒ増減ナルマシキ旨ヲ命セラレ情實ヲ
 呈露セサルト能ハサルヤウニアルヘシサテ三都ヲ

吟メ公領都會ノ地ノ列藩ノ金主タルモノニ命シ右
 三十年來ノ滯借ノ分ヲ侯家一軒ニ別紙ニ認メ
 官衙ヘサシ出サセ諸國ニ命ヲ傳ヘ町在ヨリ領
 主又ハ隣領主ヘ調達シ又ハ地頭用ニテ連判カリ
 レタル中ノ滯借ノ分ナトカキタテ其地頭ニハ納
 メ其通并副本ヲ一通ツミ手近ノ官衙ヘサシ出サシ
 ムヘシ總メ上方ヨリ列國ノ寺社諸邑ノ人マテ凡ソ
 侯家ニ出金アル分ハ皆右ノ例ナルヘシ是等ヲ取調
 ヘテ侯家有司ノ差出セル高二引合セハ少ク異同
 アリ氏實數明白ナルヘシモシ大ナル相違アラハ再
 亂ヲ歴ヘク氏大氏ノ違ヒハ兩方平均シソノ中ヲ取



テモスムヘシサテ滞借ノ高二知行ノ高ヲ引クラヘ
 借高一倍マテノ内ハ窮困ノ數ニ入マシテ二以上ヨ
 リ幾倍ニミト次第ヲ分クタルトヘハ小一窮大三窮中
 二窮ト段ヲ立テソレヲ打越タルヲ極窮トシ公役ハ
 是マテ侯家ニテ勤マリシ年數ノ遠近モアルヘケレ
 ハ大抵幾年比ニ回リ來ルヘキ考モアルヘシヨカ
 タルヘキ年ヨリ小窮ハ五年中窮ハ七年大窮ハ十年
 極窮ハ十五年ナリシワリテ其年數ノ内公役ヲ御工
 ルニアルヤウニテシカクアレハ近コト勤役
 リシ分ハ今年ヨリ實年ヲ計フレハ五年ハ十年ニ及
 七十五年ハ二十年ニモ及ヘシ大ナル歲計ノユルミ

ニテ莫大ニ公怒ナルヘシサレ氏諸侯ハ元來上人覺
 ヲ分チ一方ヲ治メテ人民ヲ撫育スル職分ナレハソ
 ノ撫育出來ス庶富教ノ三事少シモ効シナクテハ上
 へ對シ申ワケモナキコソ人罪逃ルニ所ナキナレハ
 一ノ所ハ嚴命アリテ急度身ヲ慎ミ節儉ヲ專ラニシ
 ラ山獵ノ荒ニ聲色ノ耽ル一切停廢シ公役免許ノ身
 限ノ内ハ飲食器服土木等聊ノ物數奇ヲモナサズ大
 人タル身ヲ爲スシテハ叶ハサル條齊治平ノ實學ニ
 篤ク志シ文武ノ藝術ヲ怠リナク又士大夫ヲ引回シ
 隨分賢二任シ能ク使ヒ異日ニ庶富教ノ基本ヲ固メ
 年中ノ經費ハ五萬石ハ一萬石ノ格十萬石ハ二萬石

一滞借ノナキ旨ヲ書出シタル諸侯ハヤハリ公役ヲ
 務メ四窮ノ侯氏ニハ公役ヲ免許アルヤウニトイヘ
 ハ是ナルハ賞ナク非ナルハ却テ賞アルヤウニキコ
 ヲシ厄サニハ非ス是ハ上ノ仁慈ヲ以テソノ國ノ急
 ヲ濟スソノ民力ヲ愛養セン爲ナレハソノ侯氏ノ一
 身ノ慎ハ甚大切ノトスヘシモシ年限中ニ不慎ノ
 事アラハソノ時コソ讓典是ニ從ヒソノ輕重ニ依テ
 地ヲ削ラルヘケレ中侯以上ニ滞借ノナキハ常トス
 へキコユ工賞格ニアツカルモ人ナシタニ一二萬石
 ノ小侯ニテ年來ノ惡習ニ混セス無借ナルアリ其奇
 特ノトナリソノ臣民ハ必安長無事ナルヘシ是ハ慶

典ヲ以テ地ヲ増ルヘキカ或ハ品ニヨリ臨時ノ賞賜
 アルヘキモノカソレモ大ナル本家アリテ何事モ本
 家ニ倚賴シテ無借ナルハ其筈ノトユ工賞ニモ及ハ
 サルヘシ又ハ鄙吝暴斂ヲ以巳ノミ足テ書出セル所
 ハ無借ニテモソノ臣民ハ大ニ窮スルモアルヘシ是
 ハ人ノ上タル器ニ非レハ譴責アリテ可ナリ故ニ滞
 借ノ有ハ非ニナカヒナケレモソノ無ハ皆是レシカ
 タシ但能其真是ヲ察シタル上ニテ一二小侯ヲ賞シ
 モロミ、ノ滞借家ノ警策トナル様ニ有リ度キ者也
 一右三十年來ノ内モ列侯當主ノ家督ノ年ヲ考フレ
 ハミナ先代ノ滞借ニテ當主ハ幼年又ハ成長ニテモ

繼承近キニアラハ罪ハミナ先世ニアリテソノ身預
リ知所ニ非スサレト既ニ其位ニ當ルカラハ他ナシ
自分ニ深く慎ミ右ノ制ヲ守リ少モ早ク先愆ヲ掩フ
ヨリ外ハナカルヘシ其大臣巨室モコノ心ニテ輔佐
ノ勞ヲ盡ヘキノミ又懸車ノ尊ナホ存生ニテ身ノ不
經濟ヲ以テ孫謀ヲ善セヌ艱困ノ家督ヲ讓ナカラ曾
省悟スル所ナク退休ノ餘閑ニ乘ル般樂怠教ニ冗費
ヲ顧スソノ臣子ヨリ諫止モナリカタク大幹蠱ノ方
ヲ妨ルモアルヘシ是ハ官ヨリ嚴命ヲ加ヘテ裁抑ア
ラセラレハ臣子タル分大ニ力ヲ得テ經濟ニ障ルコ
ナクナルヘシ又既ニ敗盡メ世ヲ傳ヘタル後モ曾テ

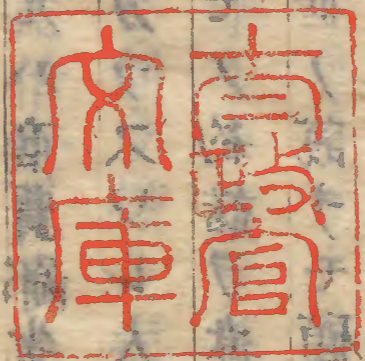
退聽セヌトカク我覆轍ヲ以テ後車ヲ導キ一ノ政事
ヲ掣肘スルノ類モマヽアリト聞ク是又尤嚴ニ裁抑
アラセラレタキ所ニアラシカシ
一總メ武門一ツノ儻習アリ何事モ内ヲ捨テ外ヲ飾
リ少シニテモワルヒレタル體アルコトヲ不外聞ト心
得テ凡ソ衣食ヲ慙クシ宮室ヲ卑クスル往聖ノ美蹟
ナトヲミナソノ主人ノ不外聞ニ落シコメカノ格式
ヲ五分一二減スルナトハ莫大ノ不外聞トシテイカ
ヤウニ窮メモ先祖以來ノ格ハ少シモ崩スマシト支
吾スル人モアルヘシ是ハ他ナシ侈靡ヲ好シ崇高富
貴ヲ誇リタキノ私心ヲ以テソノ心ニ叶ハサルコト



ハミナ不外聞ニ歸スルナリ故ニ不外聞ト云フ言
ニシテ邦ヲ喪スニ幾スルトモ云ヘシ且又諸侯
テ領内ヲ撫育出來サルホトハ眞ト不外聞ハアル
シキヲソレハ曾テ顧スシテ表ヲ人ニ飾ラントスル
ハイカナル不了簡ナルヘキコト深ク教諭人及公
モラレタキモノニ在シガ
一武門ニ又ニツノ僻習アリ予ミ人義ヲ争ヒ耻辱ニ
ナルコトヲ重ニシ聊カノ事ニモ劍ヲ按シ疾ニ視又風
有テ獨介ニ過タルヤウナレ凡借金ヲ負テ償ハサル
コト何モ思ハヌコト一統ナリ朋友ニハ財ヲ通スル
事アルユエ管鮑ノ交ナト云ヘキ間ナラハ格別ナリ

ナルニサモナキライロミ人ヲ頼ミ堅ク約ヲナシ
證札マテ出シテ一ツモ言ヲ踐ス等閑ニサシオキテ
金銀貨財ノコトヲ彼是ト論スルハ商賈鄙劣ノ態ナリ
ナト云テ空嘯キラル類少ナカラソレ人ノ物ヲカ
リテ返サヌハ不義ノ大ナルモノ約諾ヲ違背シ證印
マテシタルモノヲ反古トシ世ノ謗ヲモ顧ミサルハ
耻辱ノ大ナルモノナルヲ專トモセサルハアヤシキ
風習ト云ヘシ諸侯家ノ大借トナルモ多クハコノ風
習ヨリ出テツノ事ヲ幹スル有司ミナカク風習又人
ナレハ經濟ノ筋段ニ行届カサルコトナリ財用ノ事
ハ大學ノ末ニモ出テ治國ノ要務ナリ武門ノ人ニ於

テトテモ義ヲ重ニスルトナラハコノ義ヲモヨク重
ニシ又トテモ耻ヲ知トナラハ此耻ヲヨク考ヘキコ
ナリコノ趣モ教諭ヲ加ヘテ列侯ヨリ羣有同クテ宋
心感悟コレアルヤウニアリタキモ少ナリハ仁入用



草茅危言卷一終

...

